

Ⅲ 県外観光客動態調査

1 概要

● はじめに

本調査は、観光施策の基礎資料とすることを目的に、高知県内の観光地10地区で四季別にアンケート調査を実施し、結果をとりまとめたものである。

調査精度の均一化を図るため、調査員による対面聞き取り方式のアンケート調査を実施。時間帯も10時から17時頃まで偏りがないように調整しながら調査している。あわせて1グループに1名(1回答)を徹底した。

なお、暦年調査のため、四季別データは冬春夏秋の順で表示した。

● 調査場所(10ヶ所)

室戸岬、モネの庭、アンパンマンミュージアム、龍河洞、高知城、桂浜、土佐和紙工芸村、黒潮本陣、四万十川、足摺岬

● 調査時期

- ・冬季:平成30年1月2日～平成30年2月11日
- ・春季:平成30年6月2日～平成30年6月24日
- ・夏季:平成30年7月14日～平成30年8月18日
- ・秋季:平成30年10月7日～平成30年11月17日

※1日で十分なサンプル数を得ることができなかった冬季のモネの庭、高知城、春季の桂浜、夏季のアンパンマンミュージアム、秋季の土佐和紙工芸村、アンパンマンミュージアムでは2日間調査を行っている。

● 調査結果の概要

「1泊2日」が過去4年を通じて最大。県内旅行日数は横ばいの2.0日。

日帰り客と宿泊客の割合(P17:表3-1)は、「1泊2日」の割合が平成26年度以降の調査で最大となる42.8%となったが、県内旅行の平均日数(P24:図5-1)は前年から横ばいの2.0日となった。

発地ブロック別では、「四国」「中国」「近畿」の近隣3ブロックは横ばい、「関東」は0.2日減少などとなっているほか、北陸・新潟(0.5日増加)や東北(0.3日増加)などでは増加している。

「四国」「近畿」の入込が増加。「中国」は減少傾向。

発地ブロック別入込割合(P20:表4-1)は、「四国」と「近畿」の割合が平成26年度以降の調査で最大となったことが目立った。「関東」は前年比2.1ポイント減少したものの、前年同様に3番目に入込が多いブロックとなった。「中国」は平成27年度からの減少傾向が続き、平成26年度以降の調査で最小となった。

「家族」旅行が67.5%。少人数旅行の増加傾向が続く。

旅行形態割合(P29:表8-1)は、「家族」の割合が前年比で0.6ポイント増加の67.5%を占め、「1人」「友人知人」も増加。同行者数割合(P30:表8-2)は、「1人」「2～3人」が増加した一方で、「4～5人」以上の区分は減少となった。

県内平均消費額は、596円減少の25,233円で減少傾向が続く。

県内平均消費額(P35:図10-1)は、前年比で596円減少の25,233円となり、減少傾向が続く。四季別(P38:表10-2)でみると、冬季が前年比で1,604円増加したものの、特に低調となった夏季と秋季が年間平均をより押し下げた。

費目ごとの変動(P35:図10-1 参考①)は、「飲食費」が前年比で199円増加した一方、「交通費」が405円、「土産代」が175円、「宿泊費」が173円、入場料等を含む「その他」が42円と、それぞれ減少となった。

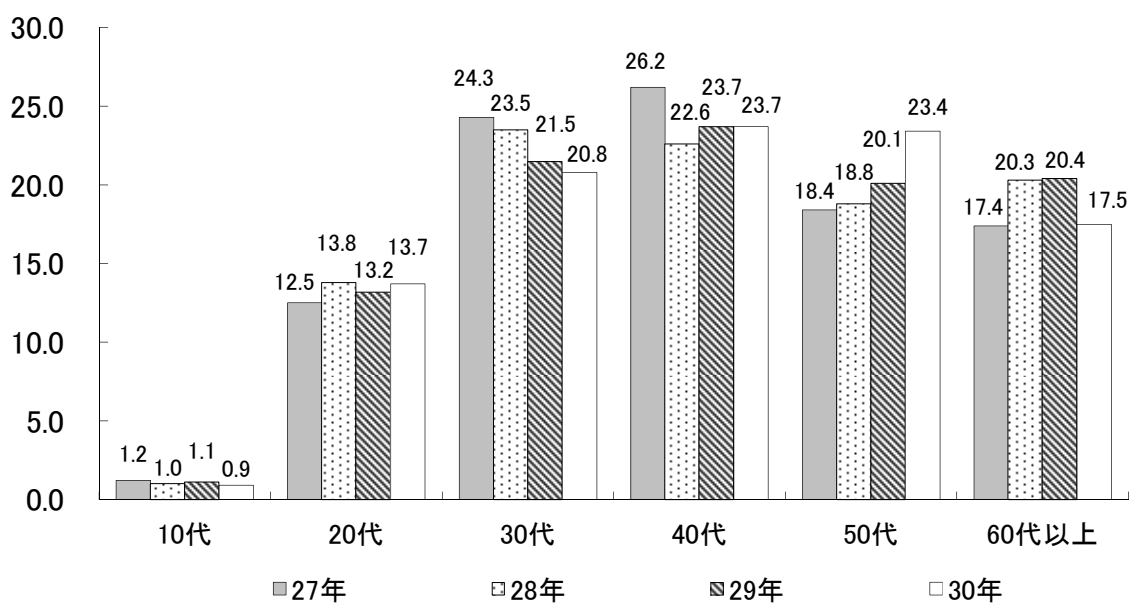
2 年代別入込割合

(表 2-1) 年代別旅行者割合(上段:件 下段:%) [H27~30年]

	27年 (n=2,940)	28年 (n=2,976)	29年 (n=2,696)	30年 (n=2,657)	対前年比 30年/29年
	10代	35 1.2	31 1.0	29 1.1	
20代	367 12.5	412 13.8	356 13.2	363 13.7	103.8%
30代	715 24.3	698 23.5	581 21.5	552 20.8	96.7%
40代	771 26.2	674 22.6	638 23.7	629 23.7	100.0%
50代	541 18.4	558 18.8	541 20.1	623 23.4	116.4%
60代以上	511 17.4	603 20.3	551 20.4	466 17.5	85.8%

※nは、その年の調査対象となった県外観光客の総数

(図 2-2) 年代別旅行者割合(%) [H27~30年]



(表 2-1 参考①) 年代別性別旅行者割合(上段:件 下段:%) [H28~30年]

	平成28年 (n=2,976)		平成29年 (n=2,696)		平成30年 (n=2,657)	
	男	女	男	女	男	女
10代	20	11	17	12	14	10
	64.5	35.5	58.6	41.4	58.3	41.7
20代	219	193	196	160	189	174
	53.2	46.8	55.1	44.9	52.1	47.9
30代	395	303	317	264	305	247
	56.6	43.4	54.6	45.4	55.2	44.8
40代	401	273	393	245	401	228
	59.5	40.5	61.6	38.4	63.7	36.3
50代	354	204	339	202	431	192
	63.4	36.6	62.7	37.3	69.2	30.8
60代以上	399	204	358	193	322	144
	66.2	33.8	65.0	35.0	69.1	30.9
計	1,788	1,188	1,620	1,076	1,662	995
	60.1	39.9	60.1	39.9	62.5	37.5

年代別旅行者割合をみると、40代が23.7%と最も多く、次いで50代が23.4%、30代が20.8%と続いている。前年と比べ20代と50代が増加し、40代が横ばい、その他の年代が減少している。

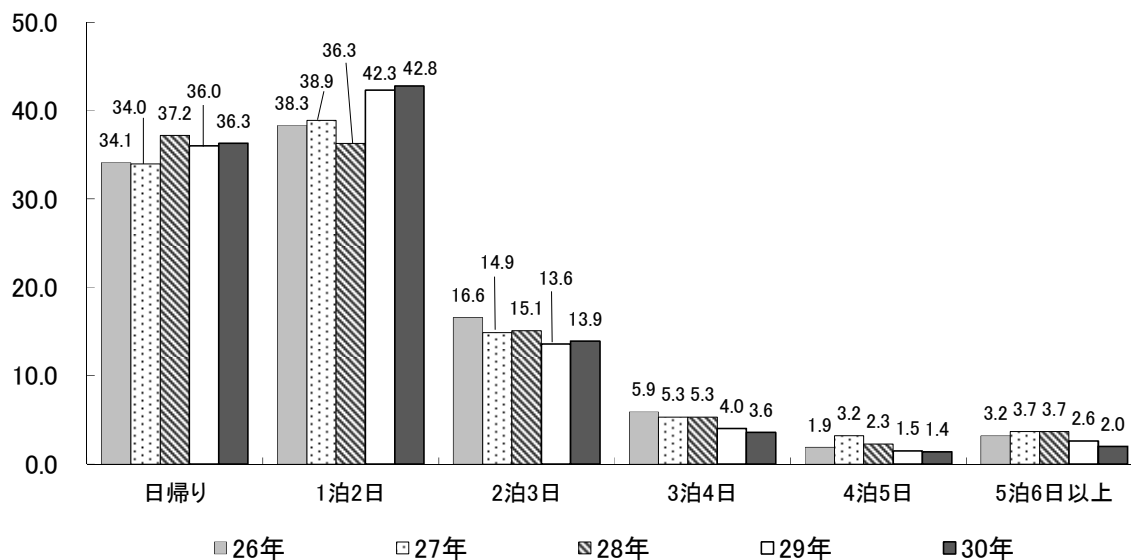
男女比は、男性が62.5%、女性が37.5%となっており、全ての年代で男性の割合が、女性の割合を上回っている。

3 日帰り客と宿泊客割合

(表 3-1) 年次別日帰り客・宿泊客割合(上段:件 下段:%) [H26~30年]

	日帰り	1泊2日	2泊3日	3泊4日	4泊5日	5泊6日以上
26年 (n=2,883)	984 34.1	1,104 38.3	478 16.6	169 5.9	54 1.9	94 3.2
27年 (n=2,940)	1,000 34.0	1,143 38.9	438 14.9	157 5.3	95 3.2	107 3.7
28年 (n=2,976)	1,106 37.2	1,079 36.3	449 15.1	157 5.3	67 2.3	118 3.7
29年 (n=2,696)	971 36.0	1,141 42.3	367 13.6	107 4.0	41 1.5	69 2.6
30年 (n=2,657)	964 36.3	1,138 42.8	370 13.9	97 3.6	36 1.4	52 2.0

(図 3-2) 年次別日帰り客・宿泊客割合(%) [H26~30年]



日帰り客と宿泊客の割合をみると、「1泊2日」が 42.8%と最も多く、次いで「日帰り」が 36.3%、「2泊3日」が 13.9%と続いている。

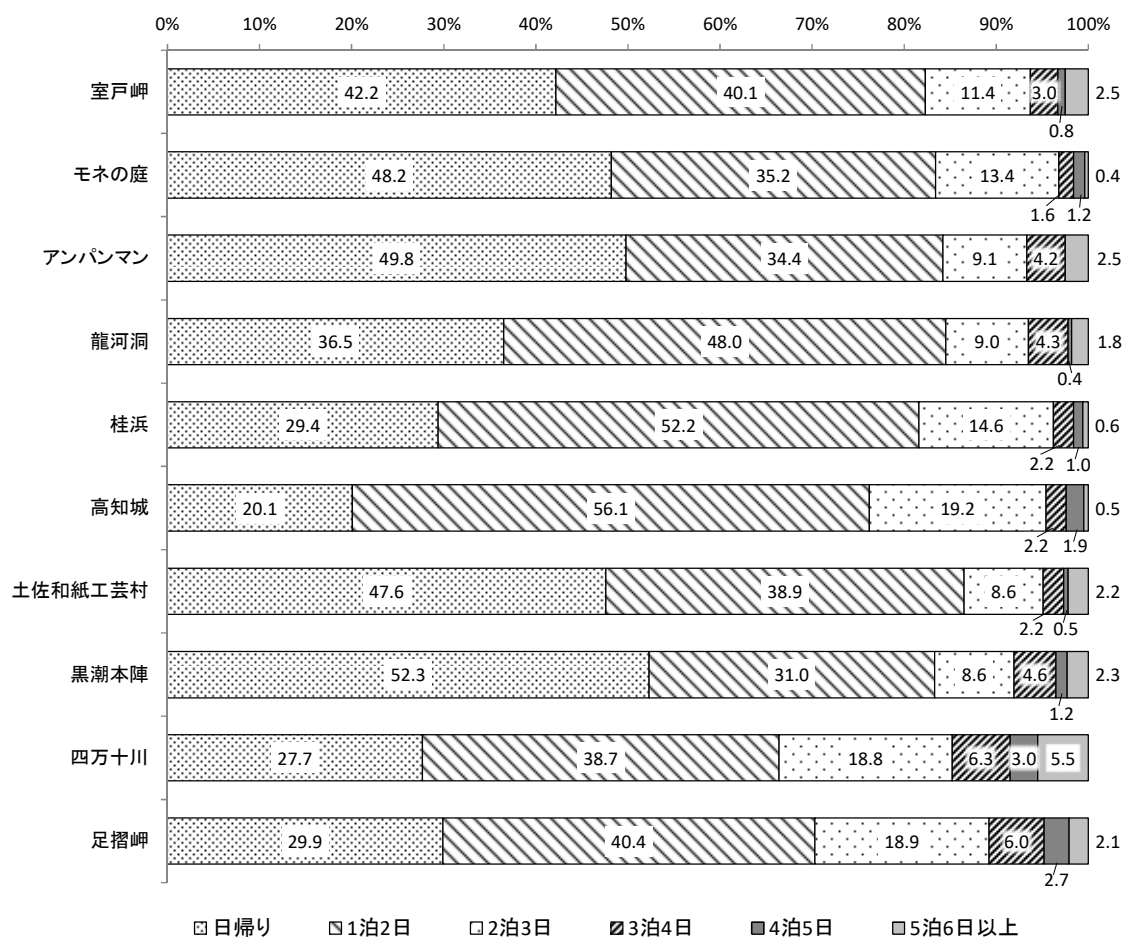
前年と比べ「2泊3日」以下の短い旅行日程が合計 1.1 ポイント増加しており、「3泊4日」以上の長い旅行日程が減少している。平成 26 年度の調査から通してみると、「1泊2日」の割合は過去最大、「3泊4日」以上の旅行日程はすべて過去最小となっている。

(表 3-3) 四季別日帰り客・宿泊客割合(上段:件 下段:%) [H29 年、30 年]

		日帰り	1泊2日	2泊3日	3泊4日	4泊5日	5泊6日以上
冬	29年	187	234	64	25	8	28
		34.2	42.9	11.7	4.6	1.5	5.1
	30年	181	240	79	26	11	23
		32.3	42.9	14.1	4.6	2.0	4.1
春	29年	295	242	71	23	9	9
		45.5	37.3	10.9	3.5	1.4	1.4
	30年	289	279	77	18	4	6
		42.9	41.5	11.4	2.7	0.6	0.9
夏	29年	232	338	116	35	18	22
		30.5	44.4	15.2	4.6	2.4	2.9
	30年	239	300	122	36	16	15
		32.8	41.2	16.8	4.9	2.2	2.1
秋	29年	257	327	116	24	6	10
		34.7	44.2	15.7	3.2	0.8	1.4
	30年	255	319	92	17	5	8
		36.6	45.8	13.2	2.5	0.7	1.2

四季別データを前年と比べると、冬季は「2泊3日」が 2.4 ポイント増加し、「日帰り」が 1.9 ポイント減少となっている。春季は「1泊2日」が 4.2 ポイント増加し、「日帰り」が 2.6 ポイント減少している。夏季は「日帰り」が 2.3 ポイント増加し、「1泊2日」が 3.2 ポイント減少している。秋季は「日帰り」が 1.9 ポイント増加し、「2泊3日」が 2.5 ポイント減少となっている。

(図 3-4) 調査地別日帰り客・宿泊客割合(%) [H30 年]



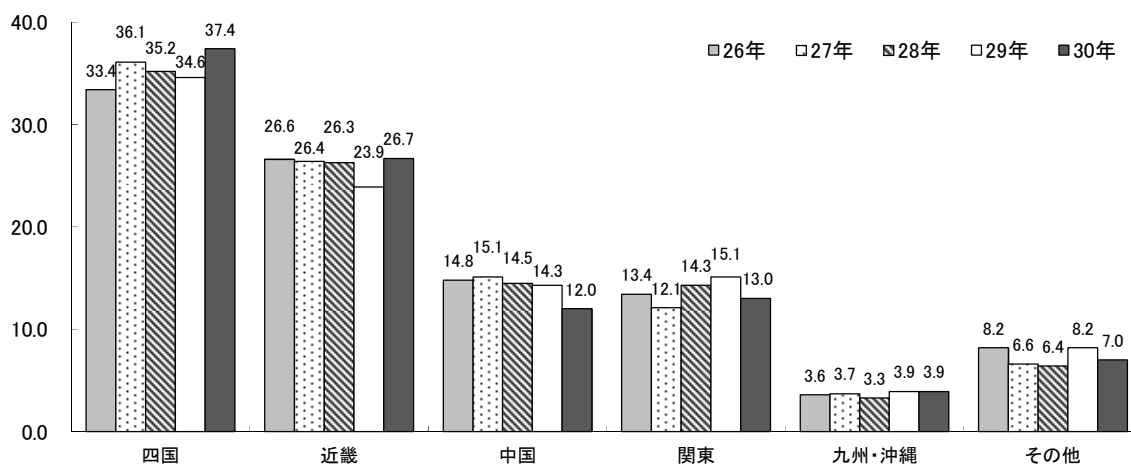
日帰り客と宿泊客の割合を調査地別にみると、「日帰り」の割合は黒潮本陣が 52.3%と最も多く、次いでアンパンマンミュージアムが 49.8%、モネの庭が 48.2%と続いている。また、「1泊2日」は高知城が 56.1%と最も多く、次いで桂浜が 52.2%、龍河洞が 48.0%と続いている。そのほか、「2泊3日」は高知城が 19.2%、「3泊4日」は四万十川が 6.3%、「4泊5日」は四万十川が 3.0%、「5泊6日以上」は四万十川が 5.5%と、それぞれ最も多くなっている。

4 発地ブロック別入込割合

(表 4-1) 発地ブロック別入込割合(上段:件 下段:%) [H26~30年]

	四国	近畿	中国	関東	九州・沖縄	その他
26年 (n=2,883)	962 33.4	766 26.6	428 14.8	387 13.4	105 3.6	235 8.2
27年 (n=2,940)	1,060 36.1	777 26.4	444 15.1	357 12.1	108 3.7	194 6.6
28年 (n=2,976)	1,047 35.2	782 26.3	432 14.5	426 14.3	98 3.3	191 6.4
29年 (n=2,696)	932 34.6	645 23.9	386 14.3	407 15.1	104 3.9	222 8.2
30年 (n=2,657)	995 37.4	710 26.7	318 12.0	345 13.0	103 3.9	186 7.0

(図 4-2) 発地ブロック別入込割合(%) [H26~30年]



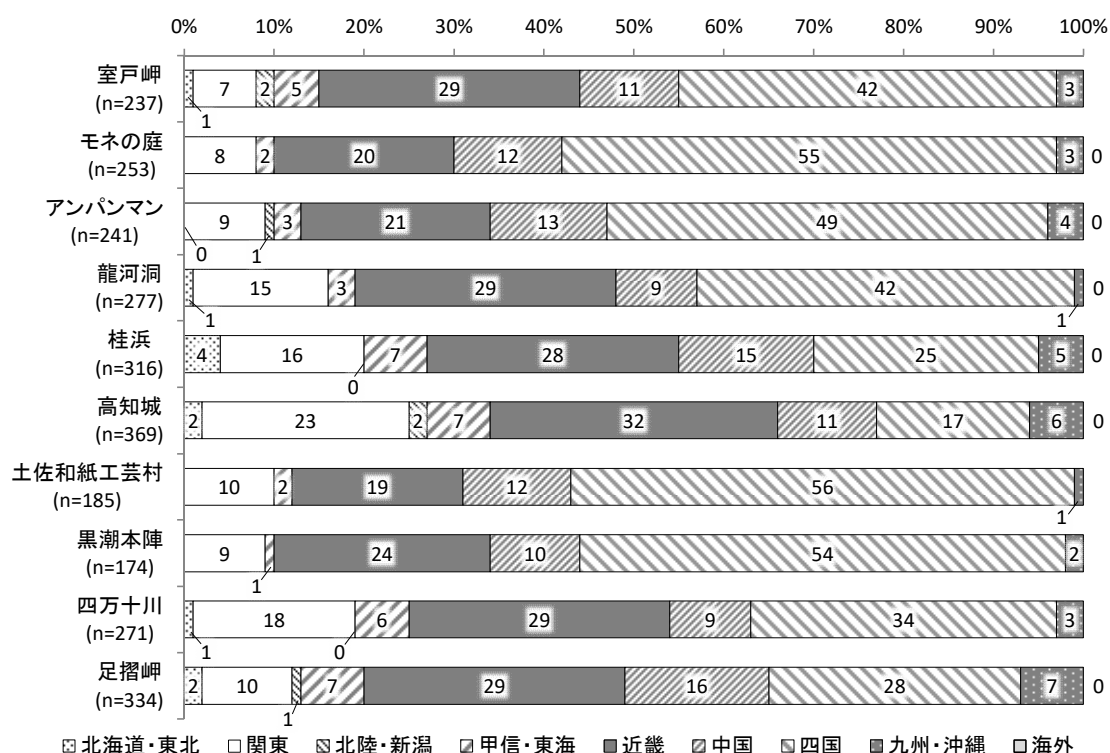
発地ブロック別入込割合をみると、四国が37.4%と最も多く、次いで近畿が26.7%、関東が13.0%と続いている。

前年と比べると、四国と近畿がそれぞれ2.8ポイント増加しており、中国が2.3ポイント、関東が2.1ポイント、その他が1.2ポイントと、それぞれ減少している。平成26年度の調査から通してみると、四国と近畿の割合は過去最大となっており、その一方で中国は過去最小となっている。

(表 4-1 参考①) 発地ブロック別入込割合(上段:件 下段:%) [H26~30年 全地区データ]

	四国	近畿	中国	関東	九州・沖縄	甲信・東海	北陸・新潟	東北	北海道	海外
26年 (n=2,883)	962 33.4	766 26.6	428 14.8	387 13.4	105 3.6	168 5.8	20 0.7	22 0.8	19 0.7	6 0.2
27年 (n=2,940)	1,060 36.1	777 26.4	444 15.1	357 12.1	108 3.7	130 4.4	32 1.1	15 0.5	11 0.4	6 0.2
28年 (n=2,976)	1,047 35.2	782 26.3	432 14.5	426 14.3	98 3.3	127 4.3	28 0.9	15 0.5	10 0.3	11 0.4
29年 (n=2,696)	932 34.6	645 23.9	386 14.3	407 15.1	104 3.9	152 5.6	15 0.6	21 0.8	11 0.4	23 0.8
30年 (n=2,657)	995 37.4	710 26.7	318 12.0	345 13.0	103 3.9	123 4.6	20 0.8	20 0.8	17 0.6	6 0.2

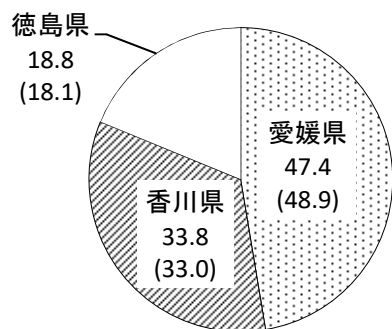
(表 4-1 参考②) 調査地別発地ブロック別入込割合(%) [H30年]



調査地別に発地ブロック別入込割合をみると(P21:表 4-1 参考②、P23:表 4-1 参考③)、桂浜と足摺岬は近畿・四国、高知城は近畿・関東、その他の7地点は四国・近畿の順で多くなっている。

四国・中国・近畿の近隣3ブロック合計で占める割合は、黒潮本陣が 88%と最も多く、次いでモネの庭と土佐和紙工芸村が 87%、アンパンマンミュージアムが 83%と続いている。また、関東・近畿ブロックの合計は、高知城が 55%と最も多く、次いで四万十川が 47%、龍河洞と桂浜が 44%と続いている。

(図 4-3) ブロック別・四国(%)

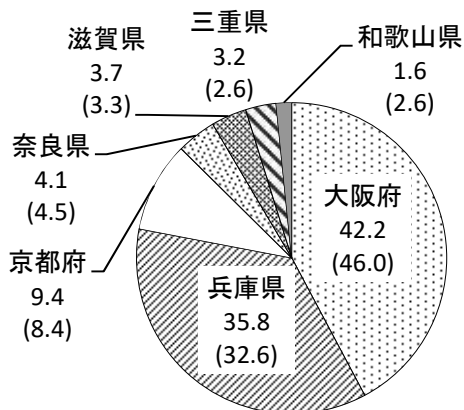


()内の数値は 29 年

前年と比べ、香川が 0.8 ポイント、徳島が 0.7 ポイント増加しており、愛媛が 1.5 ポイント減少となっている。

愛媛は全体の入込割合で1位、また土佐和紙工芸村など5つの調査地において入込割合の1位となっている。香川は全体の2位、モネの庭と龍河洞で1位となっている。徳島は全体の5位、室戸岬で1位となっている(P23:表 4-1 参考③)。

(図 4-4) ブロック別・近畿(%)

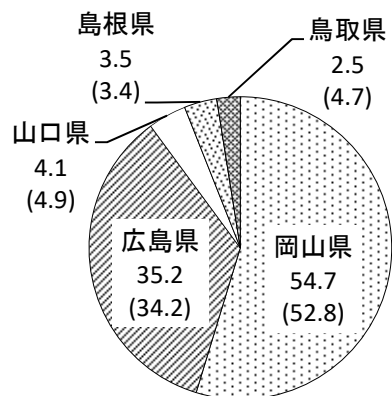


()内の数値は 29 年

前年と比べ、兵庫が 3.2 ポイント、京都が 1.0 ポイント、三重が 0.6 ポイント、滋賀が 0.4 ポイント増加しており、大阪が 3.8 ポイント、和歌山が 1.0 ポイント、奈良が 0.4 ポイント減少となっている。大阪と兵庫で 78.0%と、近畿ブロックの4分の3を占めている。

大阪は全体の入込割合で3位、桂浜と高知城で1位となっており、兵庫は全体の4位となっている(P23:表 4-1 参考③)。

(図 4-5) ブロック別・中国(%)



()内の数値は 29 年

前年と比べ、岡山が 1.9 ポイント、広島が 1.0 ポイント、島根が 0.1 ポイント増加しており、鳥取が 2.2 ポイント、山口が 0.8 ポイント減少となっている。岡山と広島の2県で 89.9%と、中国ブロックの大半を占めている。

岡山は全体の入込割合で6位、広島は全体の8位となっている(P23:表 4-1 参考③)。

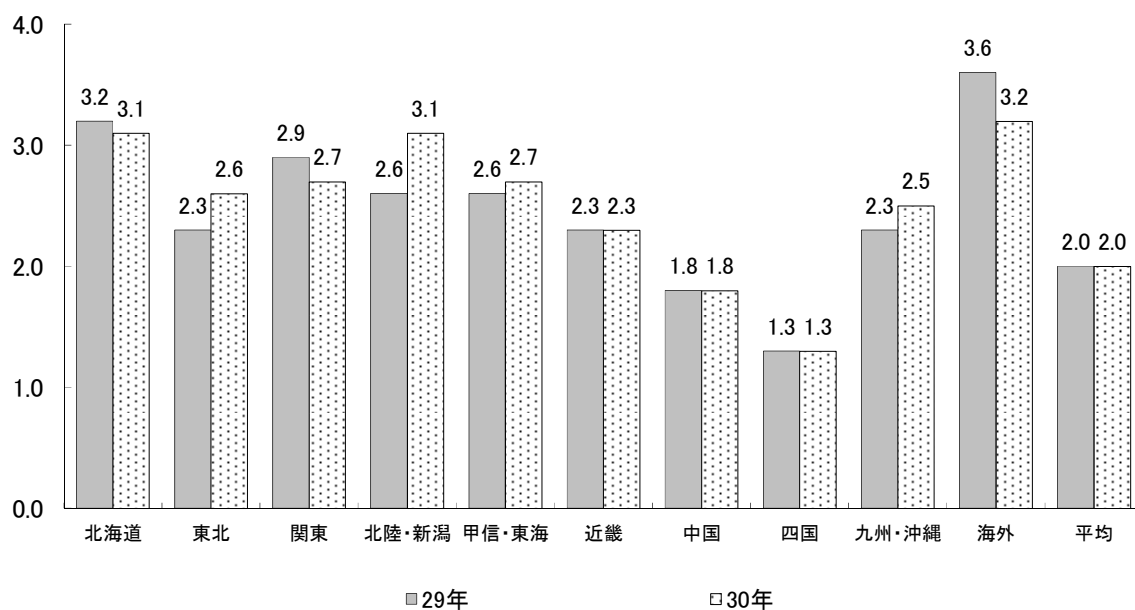
(表 4-1 参考③) 調査地別発地都道府県入込割合(件) [H30 年]

		室戸岬	モノの庭	アンパンマン	龍河洞	桂浜	高知城	土佐和紙工芸村	黒潮本陣	四万十川	足摺岬	全体	順位
県外合計		237	253	241	277	316	369	185	174	271	334	2,657	-
北海道・東北	北海道	0	0	1	3	6	3	0	0	0	4	17	
	青森県	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	
	岩手県	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	宮城県	1	0	0	0	2	2	0	0	1	2	8	
	秋田県	0	0	0	0	1	2	0	0	1	0	4	
	山形県	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	
	福島県	0	0	0	0	2	0	0	0	1	1	4	
北海道・東北計		3	0	1	3	12	7	0	0	3	8	37	-
関東	茨城県	0	0	0	1	2	5	1	0	0	2	11	
	栃木県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	
	群馬県	1	0	1	0	1	2	0	0	1	0	6	
	埼玉県	3	3	6	4	6	14	1	0	5	3	45	
	千葉県	3	1	2	5	5	12	0	0	6	4	38	
	東京都	7	13	6	24	28	34	13	12	23	11	171	7
	神奈川県	3	4	6	6	7	16	3	3	13	11	72	9
関東計		17	21	21	40	49	83	18	15	48	33	345	-
北陸・新潟	新潟県	1	0	0	0	1	4	0	0	0	1	7	
	富山県	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	3	
	石川県	1	0	0	0	0	2	0	0	0	3	6	
	福井県	2	0	1	0	0	0	0	0	1	0	4	
北陸・新潟計		5	0	2	0	1	6	0	0	1	5	20	-
甲信・東海	山梨県	0	0	0	0	1	2	0	1	0	0	4	
	長野県	0	2	0	1	1	4	0	0	1	2	11	
	岐阜県	2	0	0	4	4	5	0	0	1	3	19	
	静岡県	3	0	2	0	3	4	1	0	2	2	17	
	愛知県	6	2	5	4	12	11	2	1	13	16	72	9
甲信・東海計		11	4	7	9	21	26	3	2	17	23	123	-
近畿	三重県	2	1	6	1	3	6	0	1	1	2	23	
	滋賀県	3	1	2	4	3	4	2	0	2	5	26	
	京都府	5	5	5	12	9	10	3	2	7	9	67	11
	大阪府	29	20	14	34	37	54	12	24	39	37	300	3
	兵庫県	26	17	18	24	31	39	19	14	26	40	254	4
	奈良県	2	5	2	4	5	6	0	1	2	2	29	
	和歌山県	2	2	3	1	2	0	0	0	0	1	11	
近畿計		69	51	50	80	90	119	36	42	77	96	710	-
中国	鳥取県	0	1	1	1	2	0	2	1	0	0	8	
	島根県	2	0	3	1	3	1	0	0	0	1	11	
	岡山県	16	20	15	12	27	29	13	7	11	24	174	6
	広島県	7	9	9	9	16	11	7	10	13	21	112	8
	山口県	1	0	4	1	0	1	0	0	0	6	13	
中国計		26	30	32	24	48	42	22	18	24	52	318	-
四国	徳島県	37	33	16	32	10	14	7	15	8	15	187	5
	香川県	27	56	38	47	34	28	22	32	23	29	336	2
	愛媛県	36	49	64	37	35	21	74	46	61	49	472	1
四国計		100	138	118	116	79	63	103	93	92	93	995	-
九州・沖縄	福岡県	3	5	3	2	10	8	2	2	3	14	52	
	佐賀県	0	0	0	1	1	1	0	1	1	1	6	
	長崎県	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1	4	
	熊本県	1	1	0	0	1	2	0	0	1	0	6	
	大分県	0	0	1	0	2	4	1	0	2	3	13	
	宮崎県	2	0	3	1	0	2	0	0	0	2	10	
	鹿児島県	0	2	2	0	0	3	0	1	1	2	11	
沖縄県	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1		
九州・沖縄計		6	8	9	4	15	22	3	4	9	23	103	-
海外		0	1	1	1	1	1	0	0	0	1	6	-
高知県		163	147	159	123	84	31	215	226	129	66	1,343	-

5 旅行日数

5.1 発地ブロック別県内旅行日数

(図 5-1) 発地ブロック別県内旅行日数(日) [H29 年、30 年]



県内旅行日数の平均は、前年と比べ横ばいの 2.0 日となっている。

発地ブロック別にみると、北海道と北陸・新潟が 3.1 日で最も多く、次いで関東と甲信・東海が 2.7 日、東北が 2.6 日と続いている。前年と比べ、東北、北陸・新潟、甲信・東海、九州・沖縄で増加しており、北海道、関東で減少、近畿、中国、四国は横ばいとなっている。

5.2 年代別旅行日数

(表 5-2) 年代別県内旅行日数〔※加重平均〕(日)〔H26～30年〕

	26年	27年	28年	29年	30年
10代	2.9	2.7	2.2	2.1	2.2
20代	2.1	2.1	2.1	2.0	2.1
30代	2.1	2.2	2.1	2.0	2.0
40代	2.2	2.3	2.2	2.0	2.0
50代	2.1	2.0	2.1	1.9	1.9
60代以上	2.0	2.2	2.1	2.1	1.9
全体	2.1	2.2	2.1	2.0	2.0

年代別の県内旅行日数は、10代が2.2日で最も多く、次いで20代が2.1日、30代と40代が2.0日、50代と60代以上が1.9日と続いている。

前年と比べ、10代と20代は増加、30代から50代は横ばい、60代以上で減少となっている。平成26年度の調査から通してみると、60代以上で過去最小となっている。

※加重平均: 平均値を算出する際に、量の大小を反映させる方法

6 旅行形態別旅行目的割合

(表 6-1) 旅行形態別旅行目的割合(%) [H28～30 年]

		自然見物 ・町歩き	休養・慰安	イベント	アウトドア	スポーツ	食べ物	神仏 霊場巡り	買い物	名所旧跡 観光施設	なんとなく	帰省・仕事	その他
1人	28年	21.4	2.1	3.6	2.9	1.6	6.3	6.5	0.8	11.5	17.7	22.7	2.9
	29年	21.7	2.7	2.7	3.3	0.6	8.2	6.9	0.8	13.7	13.7	23.0	2.7
	30年	16.5	1.4	2.5	2.5	1.1	4.6	6.3	1.1	14.0	18.4	29.1	2.5
家族	28年	19.8	4.6	2.6	3.2	0.6	15.5	3.4	2.1	28.2	3.0	15.8	1.2
	29年	24.3	3.4	1.7	2.9	0.9	16.5	4.2	1.9	27.2	4.9	10.6	1.5
	30年	21.3	4.7	0.7	2.9	0.3	16.9	3.4	2.0	27.9	6.5	11.5	1.9
友人 知人	28年	23.9	2.2	4.6	6.1	0.9	28.2	1.5	0.9	17.4	8.2	5.0	1.1
	29年	19.5	3.3	2.6	5.6	0.7	28.8	2.8	0.9	18.4	10.5	5.1	1.8
	30年	19.5	3.9	1.4	4.4	0.2	28.0	2.1	0.9	22.5	11.1	4.6	1.4
団体	28年	18.7	20.8	2.1	4.2	4.2	14.6	0.0	0.0	20.8	2.1	10.4	2.1
	29年	7.4	29.6	1.8	3.7	0.0	13.0	3.7	0.0	9.3	3.7	13.0	14.8
	30年	26.5	29.4	0.0	0.0	2.9	11.8	0.0	0.0	23.6	2.9	0.0	2.9
その他	28年	16.7	4.2	6.2	2.1	6.2	25.0	2.1	2.1	4.2	6.2	10.4	14.6
	29年	20.9	2.3	0.0	2.3	0.0	14.0	7.0	2.3	9.3	16.3	16.3	9.3
	30年	6.1	6.1	0.0	0.0	0.0	15.2	0.0	0.0	18.1	6.1	30.3	18.1
全体	28年	20.5	4.2	3.1	3.6	0.9	16.4	3.5	1.7	23.9	5.8	14.8	1.6
	29年	22.8	3.8	1.9	3.4	0.8	17.3	4.3	1.6	23.3	7.2	11.5	2.1
	30年	20.2	4.5	1.1	3.0	0.4	16.9	3.5	1.7	24.9	8.8	12.9	2.1

旅行目的の全体割合をみると、「名所旧跡・観光施設」が前年から1.6ポイント増加の24.9%と最も多く、次いで「自然見物・町歩き」が2.6ポイント減少の20.2%、「食べ物」が0.4ポイント減少の16.9%と続いている。

旅行形態別に旅行目的を前年と比べると、“一人旅”では、「帰省・仕事」が6.1ポイント増加、「自然見物・町歩き」が5.2ポイント減少となっている。“家族旅行”では、「なんとなく(ドライブを含む)」が1.6ポイント増加、「自然見物・町歩き」が3.0ポイント減少となり、“友人・知人との旅行”では、「名所旧跡・観光施設」が4.1ポイント増加、「イベント」「アウトドア」がそれぞれ1.2ポイント減少、“団体”では、「自然見物・町歩き」が19.1ポイント、「名所旧跡・観光施設」が14.3ポイント増加、「帰省・仕事」が13.0ポイント減少となっている。

平成28年度の調査から通してみると、「名所旧跡・観光施設」「なんとなく(ドライブを含む)」などは過去最大、「自然見物・町歩き」「イベント」などは過去最小となっている。

7 入込利用交通機関割合

(表 7-1) 入込利用交通機関別割合(上段:件 下段:%) [H26~30年]

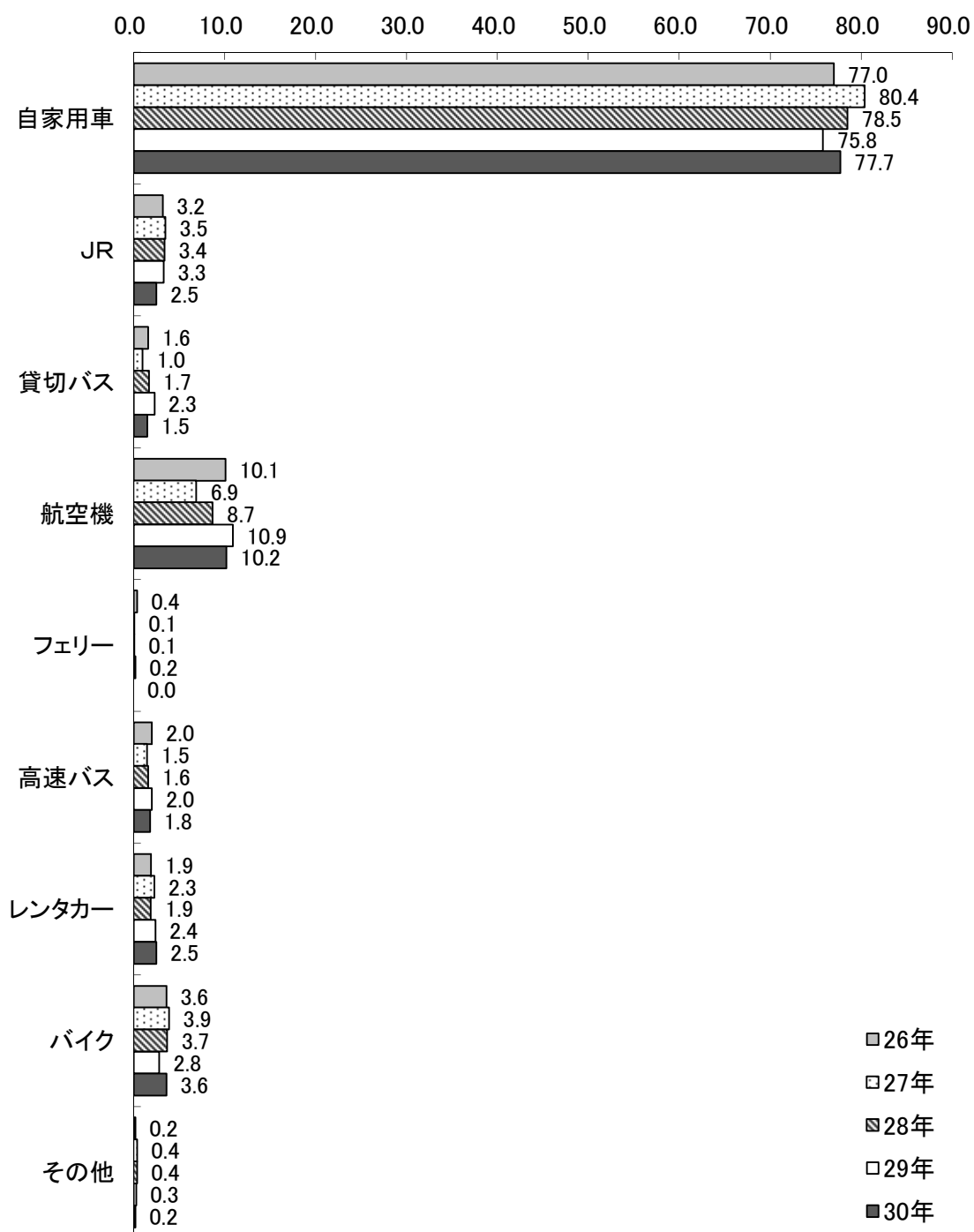
	自家用車	JR	貸切バス	航空機	フェリー	高速バス	レンタカー	バイク	その他
26年	2,220	94	46	291	12	57	54	103	6
(n=2,883)	77.0	3.2	1.6	10.1	0.4	2.0	1.9	3.6	0.2
27年	2,364	104	28	201	3	45	67	115	13
(n=2,940)	80.4	3.5	1.0	6.9	0.1	1.5	2.3	3.9	0.4
28年	2,337	99	49	260	3	48	57	110	13
(n=2,976)	78.5	3.4	1.7	8.7	0.1	1.6	1.9	3.7	0.4
29年	2,044	90	61	294	4	54	65	75	9
(n=2,696)	75.8	3.3	2.3	10.9	0.2	2.0	2.4	2.8	0.3
30年	2,064	65	40	270	0	49	67	97	5
(n=2,657)	77.7	2.5	1.5	10.2	0.0	1.8	2.5	3.6	0.2

※高知県と県外を結ぶフェリー（宿毛フェリー）は、平成30年10月より運航休止している。

入込利用交通機関は、「自家用車」が前年から1.9ポイント増加の77.7%で最も多く、次いで「航空機」が0.7ポイント減少の10.2%、「バイク」が0.8ポイント増加の3.6%と続いている。

平成26年度の調査から通してみると、「レンタカー」は過去最大、「JR」は過去最小となっている。

(図 7-2) 入込利用交通機関別割合(%) [H26~30年]



8 旅行形態割合

(表 8-1) 年代別旅行形態割合(%) [H29 年、30 年]

		1人	家族	友人知人	団体	その他
10 代	29年 (n=29)	6.9	62.1	31.0	0.0	0.0
	30年 (n=24)	0.0	79.1	16.7	0.0	4.2
20 代	29年 (n=356)	16.0	37.4	40.2	2.2	4.2
	30年 (n=363)	14.9	35.6	45.7	1.9	1.9
30 代	29年 (n=581)	9.3	66.3	21.5	1.2	1.7
	30年 (n=552)	11.1	69.5	17.6	0.5	1.3
40 代	29年 (n=638)	14.4	72.4	10.8	1.9	0.5
	30年 (n=629)	14.6	73.0	11.0	0.8	0.6
50 代	29年 (n=541)	14.2	76.9	5.4	2.2	1.3
	30年 (n=623)	15.9	73.2	8.3	1.3	1.3
60代以上	29年 (n=551)	15.1	70.8	10.0	2.7	1.4
	30年 (n=466)	12.5	74.4	9.4	2.4	1.3
全 体	29年 (n=2,696)	13.5	66.9	16.0	2.0	1.6
	30年 (n=2,657)	13.7	67.5	16.3	1.3	1.2

旅行形態割合をみると、「家族」が 67.5% で最も多く、次いで「友人知人」が 16.3%、「1人」が 13.7%、「団体」が 1.3%、「その他」が 1.2% と続いている。

前年と比べ、「家族」が 0.6 ポイント、「友人知人」が 0.3 ポイント、「1人」が 0.2 ポイントと、それぞれ増加しており、「団体」が 0.7 ポイント、「その他」が 0.4 ポイントと、それぞれ減少となっている。

年代別に旅行形態をみると、20 代をのぞく全ての年代で「家族」が最も多く、20 代は「友人知人」が最も多くなっている。

(表 8-2) 年代別同行者数割合(%) [H29 年、30 年]

		1人	2~3人	4~5人	6~10人	11人以上
10 代	29年 (n=29)	6.9	34.5	41.4	17.2	0.0
	30年 (n=24)	0.0	70.8	25.0	4.2	0.0
20 代	29年 (n=356)	16.0	67.1	11.5	3.7	1.7
	30年 (n=363)	14.9	64.7	15.7	3.0	1.7
30 代	29年 (n=581)	9.3	60.4	24.9	4.0	1.4
	30年 (n=552)	11.1	63.2	21.9	3.8	0.0
40 代	29年 (n=638)	14.4	57.9	21.6	4.2	1.9
	30年 (n=629)	14.6	59.1	22.1	3.2	1.0
50 代	29年 (n=541)	14.2	69.0	13.3	2.2	1.3
	30年 (n=623)	15.9	64.2	14.1	4.8	1.0
60代以上	29年 (n=551)	15.1	62.8	14.1	5.6	2.4
	30年 (n=466)	12.5	67.4	12.0	5.1	3.0
全 体	29年 (n=2,696)	13.5	62.6	18.1	4.1	1.7
	30年 (n=2,657)	13.7	63.5	17.6	4.0	1.2

同行者数割合をみると、「2~3人」が63.5%で最も多く、次いで「4~5人」が17.6%、「1人」が13.7%、「6~10人」が4.0%、「11人以上」が1.2%と続いている。

前年と比べ、「2~3人」が0.9ポイント、「1人」が0.2ポイントと、それぞれ増加しており、「4~5人」と「11人以上」が0.5ポイント、「6~10人」が0.1ポイント、それぞれ減少となっている。

年代別にみると、全ての年代で「2~3人」が最も多くなっている。

(表 8-1、8-2 参考①) 年代別旅行形態・同行者数割合(件) [H30 年]

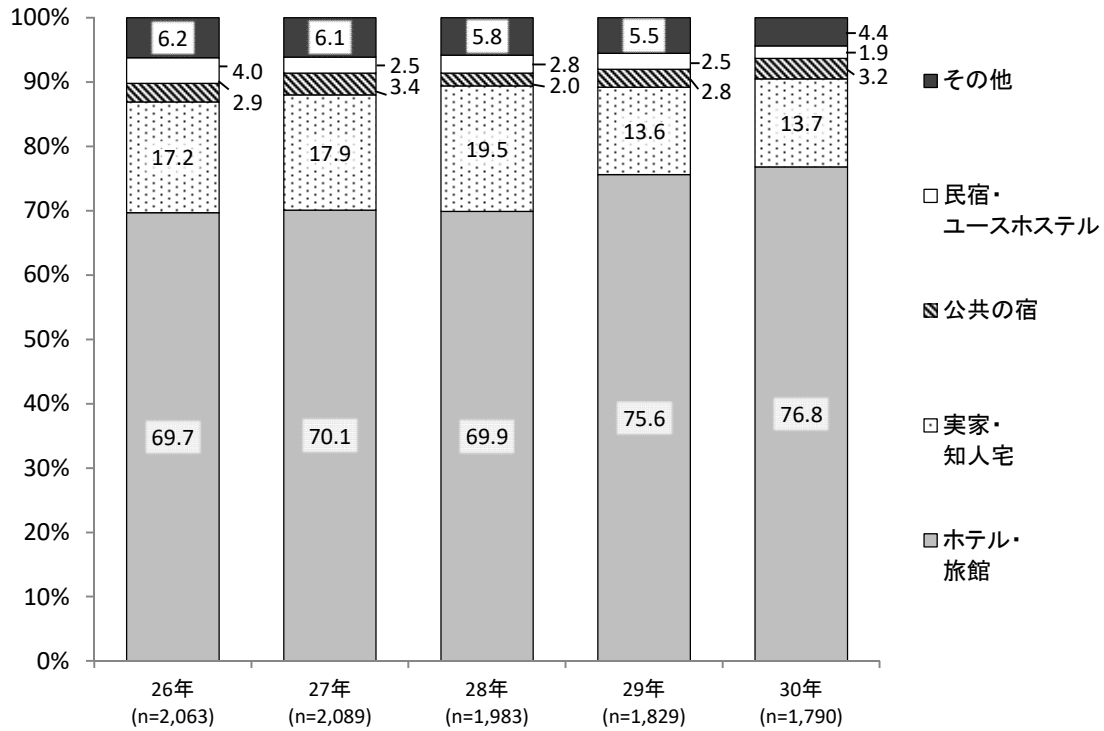
	1人	家族				友人知人				団体				その他				
		2～3人	4～5人	6～10人	11人以上	2～3人	4～5人	6～10人	11人以上	2～3人	4～5人	6～10人	11人以上	2～3人	4～5人	6～10人	11人以上	
10代		13	6			4											1	
20代	54	91	33	5		141	22	2	1				2	5	3	2	2	
30代	61	259	109	16		85	11	1					3		5	1	1	
40代	92	317	126	15	1	55	9	4	1				1	4		4		
50代	99	365	74	17		33	12	7					3	5	2	2	3	1
60代以上	58	289	47	11		24	8	10	2					11	1	1	3	1

年代別に旅行形態と同行者数の関係を見ると、10代と40代から60代以上は「2～3人の家族」が半数を超えて最も多くなっている。また、20代では「2～3人の友人知人」と「2～3人の家族」が多く、30代は「2～3人の家族」と「4～5人の家族」が多くなっている。

9 宿泊施設割合

9.1 年間

(図 9-1) 県内利用宿泊施設割合(%) [H26～30 年]



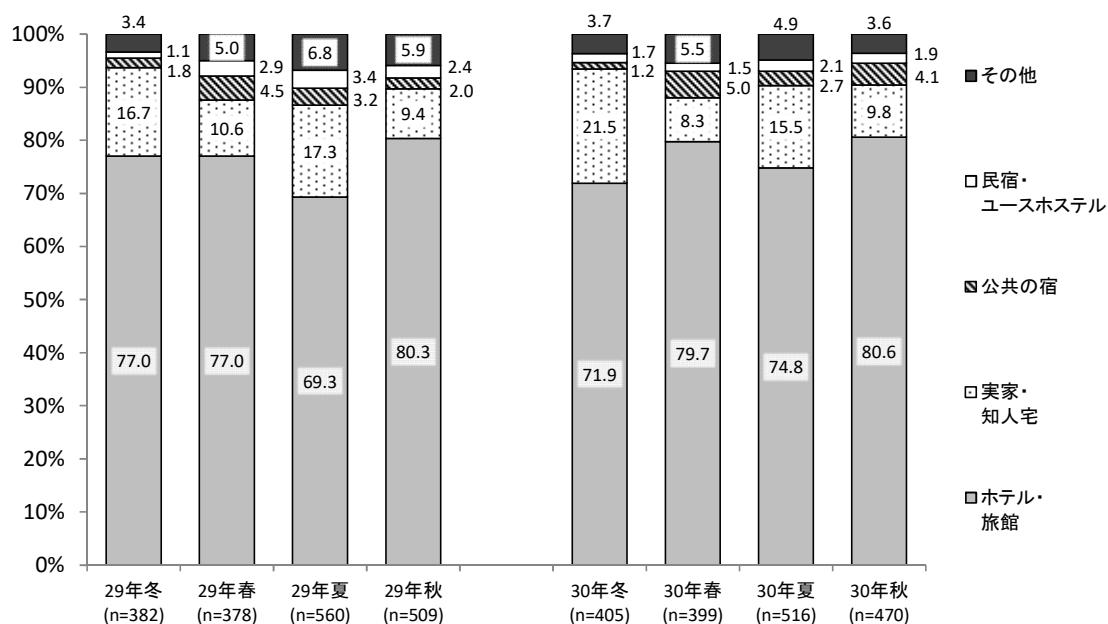
県内で利用された宿泊施設の割合は、「ホテル・旅館」が 76.8% で最も多く、次いで「実家・知人宅」が 13.7%、「その他」が 4.4%、「公共の宿」が 3.2%、「民宿・ユースホステル」が 1.9% と続いている。

前年と比べ、「ホテル・旅館」が 1.2 ポイント、「公共の宿」が 0.4 ポイント、「実家・知人宅」が 0.1 ポイントと、それぞれ増加し、「その他」が 1.1 ポイント、「民宿・ユースホステル」が 0.6 ポイントと、それぞれ減少している。

平成 26 年の調査から通してみると、「ホテル・旅館」は過去最大、「民宿・ユースホステル」と「その他」は過去最小となっている。

9.2 四季別

(図 9-2) 四季別県内利用宿泊施設割合(%) [H29 年、30 年]



四季別県内利用宿泊施設の割合をみると、「ホテル・旅館」の占める割合が年間を通じて最も多くなっている。

前年と比べると、冬季は「実家・知人宅」が 4.8 ポイント増加し、「ホテル・旅館」が 5.1 ポイント減少となっている。

春季は「ホテル・旅館」が 2.7 ポイント増加し、「実家・知人宅」が 2.3 ポイント、民宿・ユースホステル」が 1.4 ポイント減少となっている。

夏季は「ホテル・旅館」が 5.5 ポイント増加し、「その他」が 1.9 ポイント、「実家・知人宅」が 1.8 ポイント、「民宿・ユースホステル」が 1.3 ポイント減少となっている。

秋季は「公共の宿」が 2.1 ポイント増加し、「その他」が 2.3 ポイント減少となっている。

9.3 年代別宿泊施設割合

(表 9-3) 年代別県内利用宿泊施設割合(%) [H29 年、30 年]

		ホテル・旅館	実家・知人宅	公共の宿	民宿・ユースホステル	その他
10 代	29年 (n=22)	45.5	41.0	4.5	4.5	4.5
	30年 (n=18)	66.7	27.8	0.0	0.0	5.5
20 代	29年 (n=248)	75.0	14.9	1.6	2.0	6.5
	30年 (n=251)	74.9	15.1	2.8	1.6	5.6
30 代	29年 (n=398)	76.9	13.6	2.2	3.0	4.3
	30年 (n=379)	75.2	15.6	3.4	2.1	3.7
40 代	29年 (n=452)	77.0	11.1	3.3	2.4	6.2
	30年 (n=458)	77.5	12.4	3.1	2.0	5.0
50 代	29年 (n=362)	78.5	11.6	3.9	1.9	4.1
	30年 (n=402)	79.1	14.9	3.2	0.5	2.3
60代以上	29年 (n=347)	71.5	16.4	2.6	2.9	6.6
	30年 (n=282)	76.6	9.6	3.9	3.5	6.4

年代別利用宿泊施設割合をみると、全ての年代で「ホテル・旅館」が最も多くなっている。

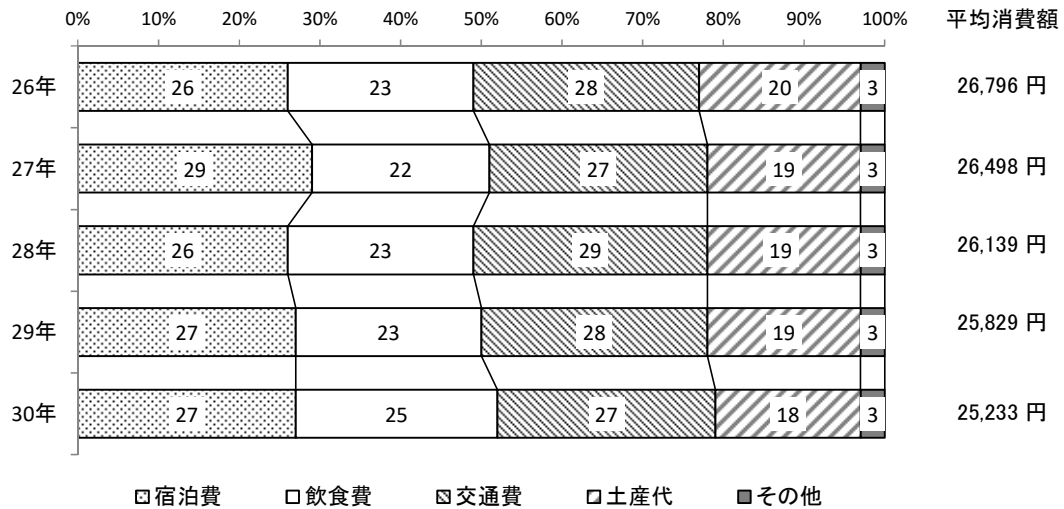
前年と比べると、10代と60代以上は「ホテル・旅館」が大きく増加し、「実家・知人宅」が大きく減少となっている。20代は「公共の宿」が増加し、「その他」が減少となり、30代は「実家・知人宅」などが増加し、「ホテル・旅館」などが減少となっている。40代と50代は「実家・知人宅」と「ホテル・旅館」が増加し、それ以外が減少となっている。

10 県内消費額

10.1 県内消費額費目別割合・平均消費額

10.1.1 年間

(図 10-1) 県内消費額費目別割合(%)、同平均消費額(円) [H26~30年]



県内消費額の年間平均金額は、前年と比べ 596 円の減少の 25,233 円となっている。費目別で見ると、「宿泊費」と「交通費」が 27%と最も多く、次いで「飲食費」が 25%と続いている。

(図 10-1 参考①) 県内平均消費額費目別内訳(円) [H28~30年]

	宿泊費	飲食費	交通費	土産代	その他
28年	6,747	5,954	7,759	4,914	765
29年	6,922	6,003	7,266	4,815	823
30年	6,749	6,202	6,861	4,640	781

費目別の平均消費額を前年と比べると、「飲食費」が 199 円増加し、「交通費」が 405 円、「土産代」が 175 円、「宿泊費」が 173 円、「その他」が 42 円と、それぞれ減少となっている。

平成 28 年の調査から通してみると、「飲食費」は過去最大、「交通費」と「土産代」は過去最小となっている。

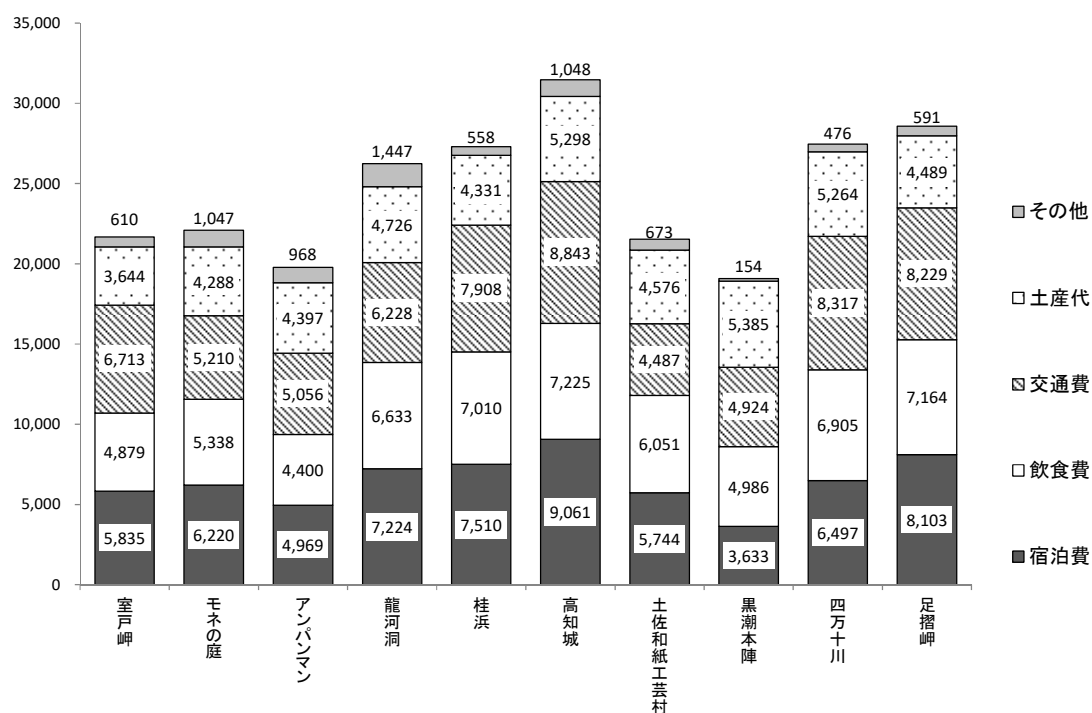
(図 10-1 参考②) 調査地別県内平均消費額(円) [H29 年、30 年]

	室戸岬	モネの庭	アンパンマン	龍河洞	桂浜	高知城	土佐和紙工芸村	黒潮本陣	四万十川	足摺岬
29年	27,485	25,474	17,648	26,556	26,635	28,386	22,073	22,017	28,869	30,527
30年	21,681	22,103	19,790	26,258	27,317	31,475	21,531	19,082	27,459	28,576
前年との差	▲ 5,804	▲ 3,371	2,142	▲ 298	682	3,089	▲ 542	▲ 2,935	▲ 1,410	▲ 1,951

調査地別の年間平均消費額をみると、「高知城」が 31,475 円で最も高く、次いで「足摺岬」が 28,576 円、「四万十川」が 27,459 円と続いており、「黒潮本陣」が 19,082 円で最も低くなっている。

前年と比べ、「高知城」が 3,089 円、「アンパンマンミュージアム」が 2,142 円の増加となっており、その一方で「室戸岬」が 5,804 円、「モネの庭」が 3,371 円の減少となっている。

(図 10-1 参考③) 調査地別県内平均消費額費目別内訳(円) [H30 年]



調査地別に費目別の平均消費額をみると、モネの庭、龍河洞、高知城では「宿泊費」が、土佐和紙工芸村では「飲食費」が、黒潮本陣では「土産代」が、その他の調査地では「交通費」が最も多くなっている。

(参考) 県外観光客1人当たりの県内消費額及び経済波及効果

	H30		H29		H28		H27	H26	H25	H24
県外観光客総数(人)	4,412,571		4,406,363		4,243,538		4,086,981	4,012,614	4,071,766	3,839,714
	客船以外	客船 (乗船客数)	客船以外	客船 (乗船客数)	客船以外	客船 (乗船客数)				
	(A) 4,331,658	80,913	(A) 4,302,503	103,860	4,182,105	61,433				
県外観光客一人当たり消費額 (円)	(B) 客船除く 25,233		(B) 客船除く 25,829		26,139		26,662	26,796	27,073	26,064
<内訳> 宿泊費	6,749		6,922		6,747		7,682	7,047	7,028	6,679
飲食費	6,202		6,003		5,954		5,827	6,253	5,923	5,858
交通費	6,861		7,266		7,759		7,153	7,383	7,608	7,315
土産	4,640		4,815		4,914		5,171	5,210	5,683	5,458
その他	781		823		765		829	903	831	754
県外観光客の総消費額(百万 円)	客船除く総消費額 (A) × (B) 109,301		客船除く総消費額 (A) × (B) 111,129		109,316		108,967	107,522	110,234	100,078
	客船乗船客等による消費額 1,135		客船乗船客等による消費 1,481		850					
客船除く生産誘発効果(百万円)	167,419		170,151		169,550					
客船の生産誘発効果(百万円)	1,309		1,877		1,211		165,436	163,263	167,434	152,004
生産誘発効果(百万円)	168,728		172,028		170,761					
生産誘発倍率(倍)	1.53		1.53		1.55		1.52	1.52	1.52	1.52

10.1.2 四季別

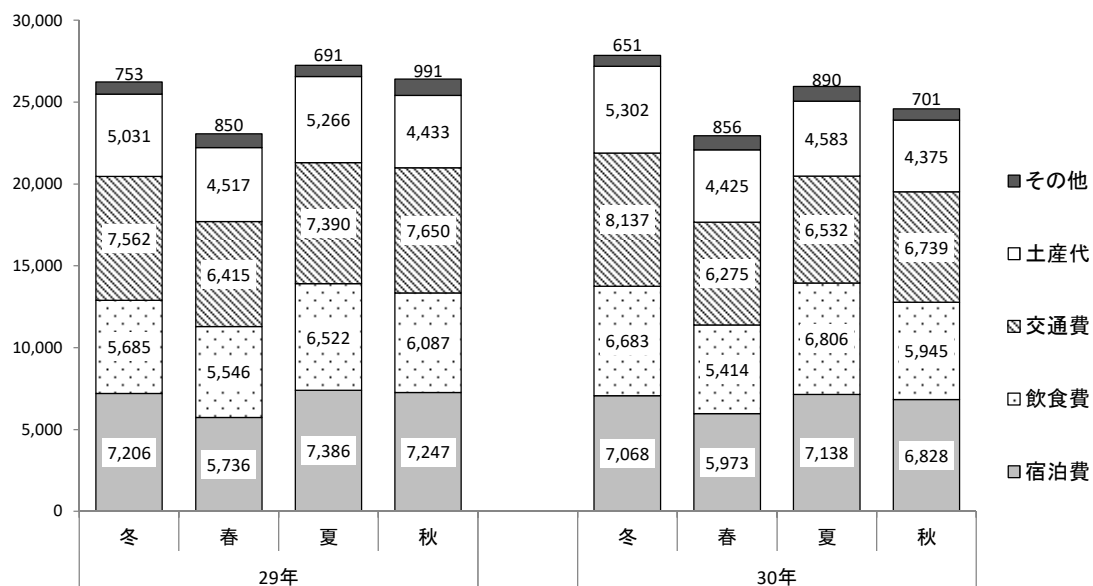
(表 10-2) 四季別県内消費額費目別割合(%)、同平均消費額(円) [H29 年、30 年]

		宿泊費	飲食費	交通費	土産代	その他	平均消費額	前年差
冬	29年	27	22	29	19	3	26,237円	1,604円
	30年	25	24	29	19	3	27,841円	
春	29年	25	24	28	19	4	23,064円	▲ 121円
	30年	26	24	27	19	4	22,943円	
夏	29年	27	24	27	19	3	27,255円	▲ 1,306円
	30年	28	26	25	18	3	25,949円	
秋	29年	27	23	29	17	4	26,408円	▲ 1,820円
	30年	28	24	27	18	3	24,588円	

四季別の平均消費額を前年と比べると、冬季が1,604円の増加となっており、秋季が1,820円、夏季が1,306円、春季が121円の減少となっている。

費目別の割合を前年と比べると、「宿泊費」は冬季をのぞく調査時期で増加、冬季が減少となっている。「飲食費」は春季をのぞく調査時期が増加、春季が横ばいとなっている。「交通費」は冬季が横ばい、その他の調査時期が減少となっている。「土産代」は秋季が増加、冬季と春季が横ばい、夏季が減少となっている。「その他」は秋季が減少、その他の調査時期が横ばいとなっている。

(図 10-3) 四季別県内平均消費額費目別内訳(円) [H29 年、30 年]



各費目について最も高くなった時季と平均消費額は、「宿泊費」が夏季の 7,138 円、「飲食費」が夏季の 6,806 円、「交通費」が冬季の 8,137 円、「土産代」が冬季の 5,302 円、「その他」が夏季の 890 円となっている。

前年と比べ、冬季は「飲食費」「交通費」「土産代」が、春季は「宿泊費」「その他」が、夏季は「飲食費」「その他」が、それぞれ増加となっており、秋季はすべての費目で減少となっている。

10.2 年代別費目割合・平均消費額

(表 10-4) 年代別県内消費額費目別割合(%)、同平均消費額(円) [H29 年、30 年]

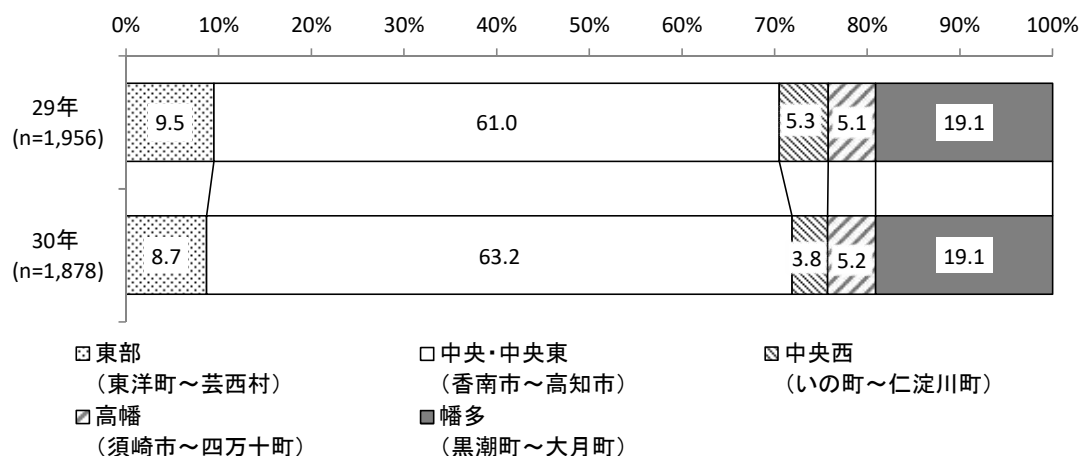
		宿泊費	飲食費	交通費	土産代	その他	平均金額	前年差
10 代	29年	27	24	24	21	4	22,486円	3,999円
	30年	18	28	31	20	3	26,485円	
20 代	29年	22	26	32	17	3	23,738円	▲ 107円
	30年	23	28	30	16	3	23,631円	
30 代	29年	27	23	28	18	4	24,477円	54円
	30年	27	25	27	18	3	24,531円	
40 代	29年	28	23	27	19	3	25,953円	491円
	30年	27	25	26	19	3	26,444円	
50 代	29年	28	22	28	20	2	26,226円	▲ 1,693円
	30年	27	25	26	19	3	24,533円	
60代以上	29年	27	23	27	19	4	28,287円	▲ 1,705円
	30年	29	21	28	19	3	26,582円	

年代別の平均消費額は、前年と比べると10代が3,999円、40代が491円、30代が54円の増加となっており、60代以上が1,705円、50代が1,693円、20代が107円の減少となっている。

費目別の割合を前年と比べると、「宿泊費」は20代、60代以上が増加、30代が横ばい、その他の年代が減少となっている。「飲食費」は60代以上をのぞく年代が増加、60代以上が減少となっている。「交通費」は10代と60代以上が増加、その他の年代が減少となっている。「土産代」は30代、40代、60代以上が横ばい、その他の年代が減少となっている。「その他」は50代が増加、20代と40代が横ばい、その他の年代が減少となっている。

11 宿泊地域割合

(図 11-1) 県内宿泊地域割合(%) [H29 年、30 年]



県内での宿泊地域をみると、「中央・中央東」が 63.2% で最も高く、次いで「幡多」が 19.1%、「東部」が 8.7%、「高幡」が 5.2%、「中央西」が 3.8% と続いている。

前年と比べ、「中央・中央東」が 2.2 ポイント、「高幡」が 0.1 ポイントの増加、「幡多」が横ばい、「中央西」が 1.5 ポイント、「東部」が 0.8 ポイントの減少となっている。

(表 11-2) 調査地別県内宿泊地域割合(%) [H30 年]

	東部	中央東	中央	中央西	高幡	幡多
室戸岬	34.7	6.4	41.1	4.0	4.0	9.8
モネの庭	35.1	4.7	51.4	0.7	2.0	6.1
アンパンマン	9.4	11.0	68.5	3.2	2.4	5.5
龍河洞	5.0	6.7	78.8	4.5	1.1	3.9
桂浜	2.6	3.4	81.5	2.2	3.9	6.4
高知城	3.5	2.9	86.2	1.3	1.0	5.1
土佐和紙工芸村	2.0	1.0	67.7	23.2	2.0	4.1
黒潮本陣	2.2	0.0	55.1	7.9	18.0	16.8
四万十川	1.4	1.4	33.6	1.4	15.2	47.0
足摺岬	2.4	3.0	30.1	2.7	6.4	55.4
全体	8.7	3.9	59.3	3.8	5.2	19.1

※背景色＋太字は調査地ごとの上位2位まで。

調査地別に宿泊地域をみると(P41:表 11-2)、四万十川と足摺岬は「幡多」「中央」の順で、桂浜と高知城は「中央」「幡多」の順で、その他の調査地は「中央」と調査地がある地域の順で、それぞれ多くなっている。

(表 11-3)調査地別県内利用宿泊施設割合(%) [H30 年]

	ホテル・旅館	実家・知人宅	公共の宿	民宿・ユースホステル	その他
室戸岬	68.2	10.1	6.8	4.1	10.8
モネの庭	78.3	14.5	3.6	1.4	2.2
アンパンマン	76.8	16.0	4.0	2.4	0.8
龍河洞	86.1	11.7	1.1	0.0	1.1
桂浜	86.0	10.5	1.8	0.4	1.3
高知城	92.7	4.7	0.3	1.0	1.3
土佐和紙工芸村	69.9	11.6	12.6	1.0	4.9
黒潮本陣	56.7	26.8	12.3	2.1	2.1
四万十川	60.0	32.1	0.9	1.4	5.6
足摺岬	72.0	9.7	1.5	4.7	12.1
全体	76.8	13.7	3.2	1.9	4.4

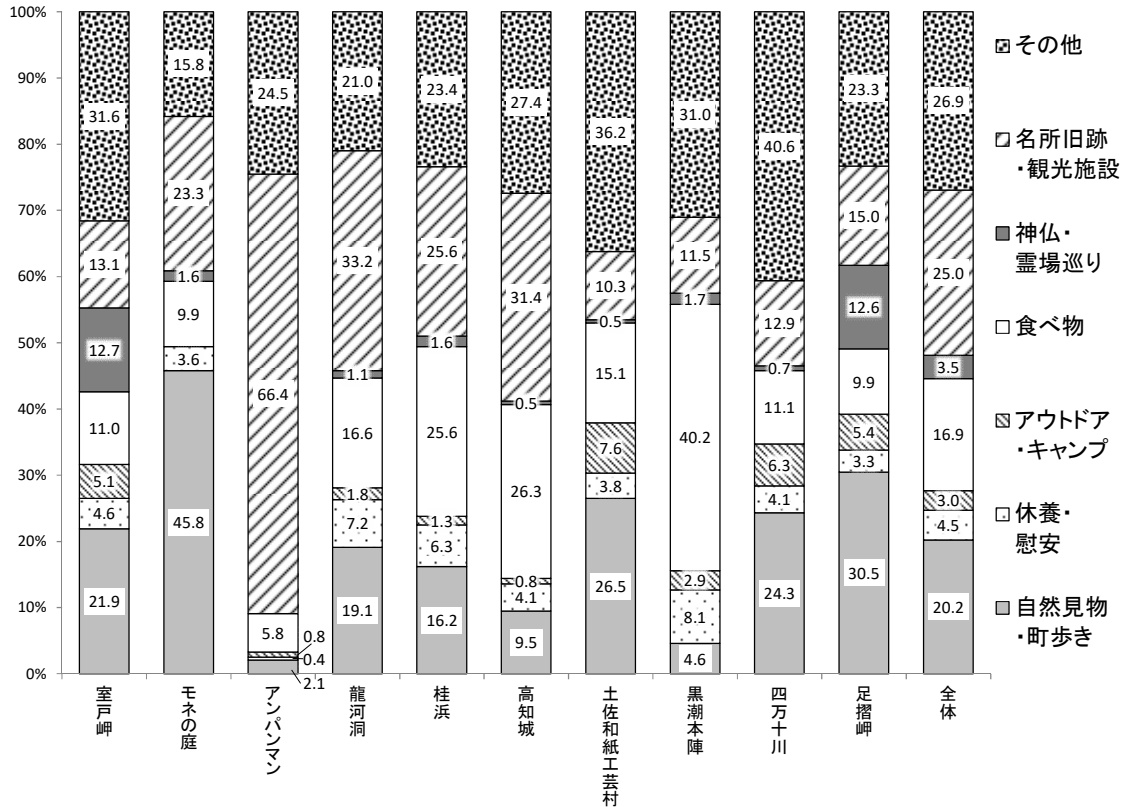
※背景色＋太字は調査地ごとの上位2位まで。

調査地別に宿泊施設をみると、足摺岬と室戸岬は「ホテル・旅館」「その他」の順で、土佐和紙工芸村は「ホテル・旅館」「公共の宿」の順で、その他の調査地は「ホテル・旅館」「実家・知人宅」の順で、それぞれ多くなっている。

12 調査地別割合

12.1 旅行目的割合

(図 12-1) 調査地別旅行目的割合(%) [H30年]



(表 12-2) 調査地別旅行目的割合(%) [H30年]

	自然見物・町歩き	休養・慰安	アウトドア・キャンプ	食べ物	神仏・霊場巡り	名所旧跡・観光施設	その他
室戸岬	21.9	4.6	5.1	11.0	12.7	13.1	31.6
モネの庭	45.8	3.6	0.0	9.9	1.6	23.3	15.8
アンパンマン	2.1	0.4	0.8	5.8	0.0	66.4	24.5
龍河洞	19.1	7.2	1.8	16.6	1.1	33.2	21.0
桂浜	16.2	6.3	1.3	25.6	1.6	25.6	23.4
高知城	9.5	4.1	0.8	26.3	0.5	31.4	27.4
土佐和紙工芸村	26.5	3.8	7.6	15.1	0.5	10.3	36.2
黒潮本陣	4.6	8.1	2.9	40.2	1.7	11.5	31.0
四万十川	24.3	4.1	6.3	11.1	0.7	12.9	40.6
足摺岬	30.5	3.3	5.4	9.9	12.6	15.0	23.3
全体	20.2	4.5	3.0	16.9	3.5	25.0	26.9

※背景色＋太字は調査地ごとの上位2位まで。

調査地別の旅行目的をみると(P43:図 12-1、表 12-2)、「室戸岬」、「土佐和紙工芸村」、「四万十川」は“その他”が最も多く、次いで“自然見物・町歩き”が続いている。その他の内訳では、「室戸岬」と「土佐和紙工芸村」は“なんとなく(ドライブを含む)”が、「四万十川」は“帰省・知人訪問”が多くなっている。

「モネの庭」は“自然見物・町歩き”が45.8%と最も多く、次いで“名所旧跡・観光施設”が23.3%と続いている。

「アンパンマンミュージアム」「龍河洞」「高知城」は“名所旧跡・観光施設”が最も多く、次いで“その他”が続いている。その他の内訳では、“なんとなく(ドライブを含む)”と“帰省・知人訪問”が多くなっている。

「桂浜」は“食べ物”と“名所旧跡・観光施設”が25.6%と最も多くなっている。

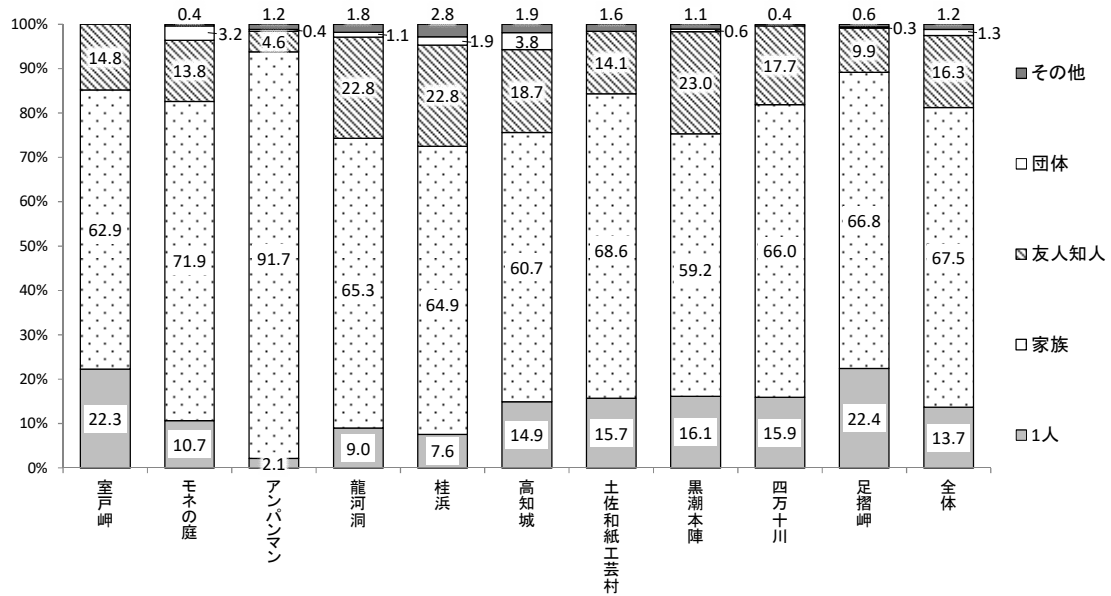
「黒潮本陣」は“食べ物”が40.2%と最も多く、次いで“その他”が31.0%と続いている。その他の内訳では、“帰省・知人訪問”、“なんとなく(ドライブを含む)”などが多くなっている。

「足摺岬」は“自然見物・町歩き”が30.5%と最も多く、次いで“その他”が23.3%と続いている。その他の内訳では、“帰省・知人訪問”と“なんとなく(ドライブを含む)”が多くなっている。

旅行目的別にみると、“自然見物・町歩き”は「モネの庭」「足摺岬」「土佐和紙工芸村」の順で、“休養・慰安”は「黒潮本陣」「龍河洞」「桂浜」の順で、“アウトドア・キャンプ”は「土佐和紙工芸村」「四万十川」「足摺岬」の順で、“食べ物”は「黒潮本陣」「高知城」「桂浜」の順で、“神仏・霊場巡り”は「室戸岬」「足摺岬」「黒潮本陣」の順で、“名所旧跡・観光施設”は「アンパンマンミュージアム」「龍河洞」「高知城」の順で、それぞれ多くなっている。

12.2 旅行形態割合

(図 12-3) 調査地別旅行形態割合(%) [H30年]

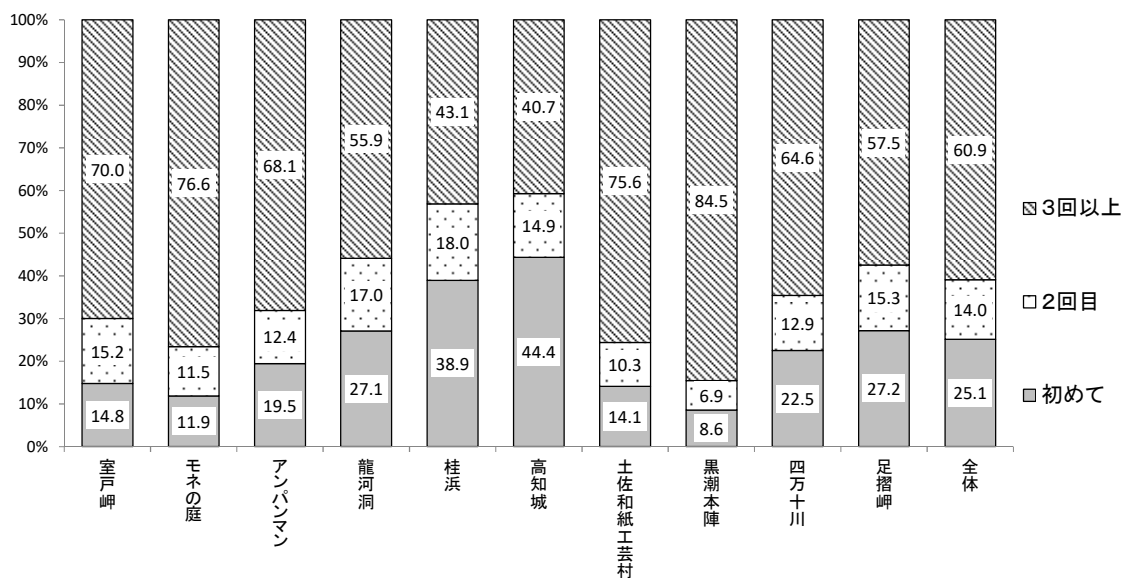


調査地別の旅行形態割合をみると、全ての調査地で「家族」が最も多く、次いで、足摺岬、室戸岬、土佐和紙工芸村は「1人」が、その他の調査地は「友人知人」が、それぞれ多くなっている。

旅行形態別にみると、「1人」は足摺岬、室戸岬、黒潮本陣の順で、「家族」はアンパンマンミュージアム、モネの庭、土佐和紙工芸村の順で、「友人知人」は黒潮本陣に次いで龍河洞と桂浜が、「団体」は高知城、モネの庭、桂浜の順で、それぞれ多くなっている。

12.3 過去来県回数割合

(図 12-4) 調査地別過去来県回数割合(%) [H30 年]



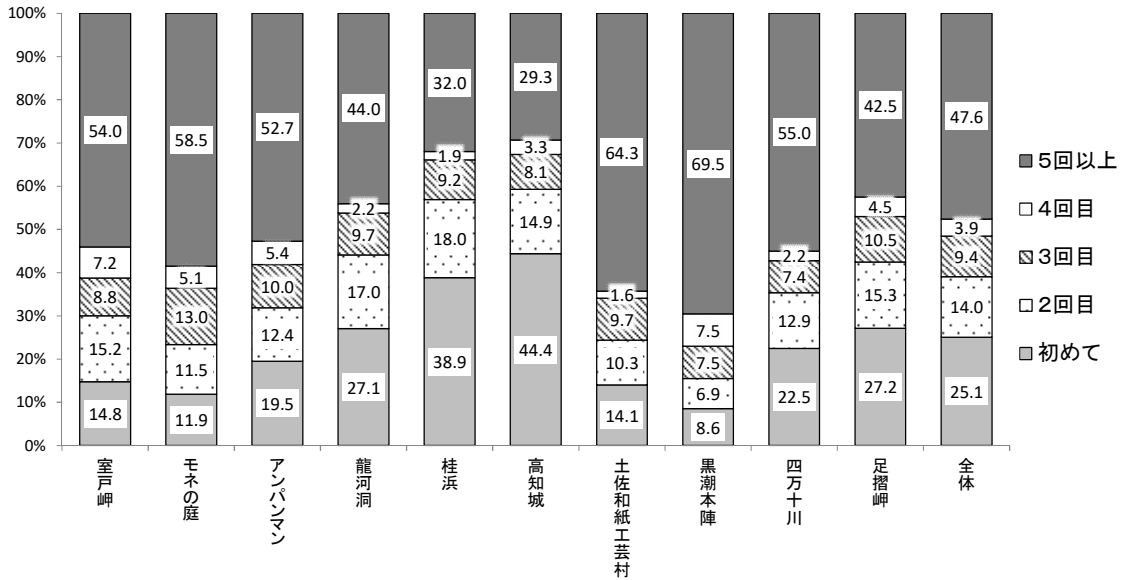
(図 12-4 参考①) 過去来県回数割合(%) [H27~30 年]

	初めて	2回目	3回以上
27 年	20.4	13.4	66.2
28 年	22.1	14.2	63.7
29 年	24.8	14.5	60.7
30 年	25.1	14.0	60.9

全体の過去来県回数は、「初めて」の旅行者が 25.1%、「2回目」が 14.0%、「3回以上」が 60.9%となっている。前年と比べ「初めて」が 0.3 ポイント、「3回以上」が 0.2 ポイント増加しており、「2回目」が 0.5 ポイント減少となっている。

来県回数別にみると、「初めて」は高知城、桂浜、足摺岬の順で、「2回目」は桂浜、龍河洞、足摺岬の順で、「3回以上」は黒潮本陣、モネの庭、土佐和紙工芸村の順で、それぞれ多くなっている。

(図 12-4 参考②) 調査地別過去来県回数割合(※詳細)(%) [H30年]



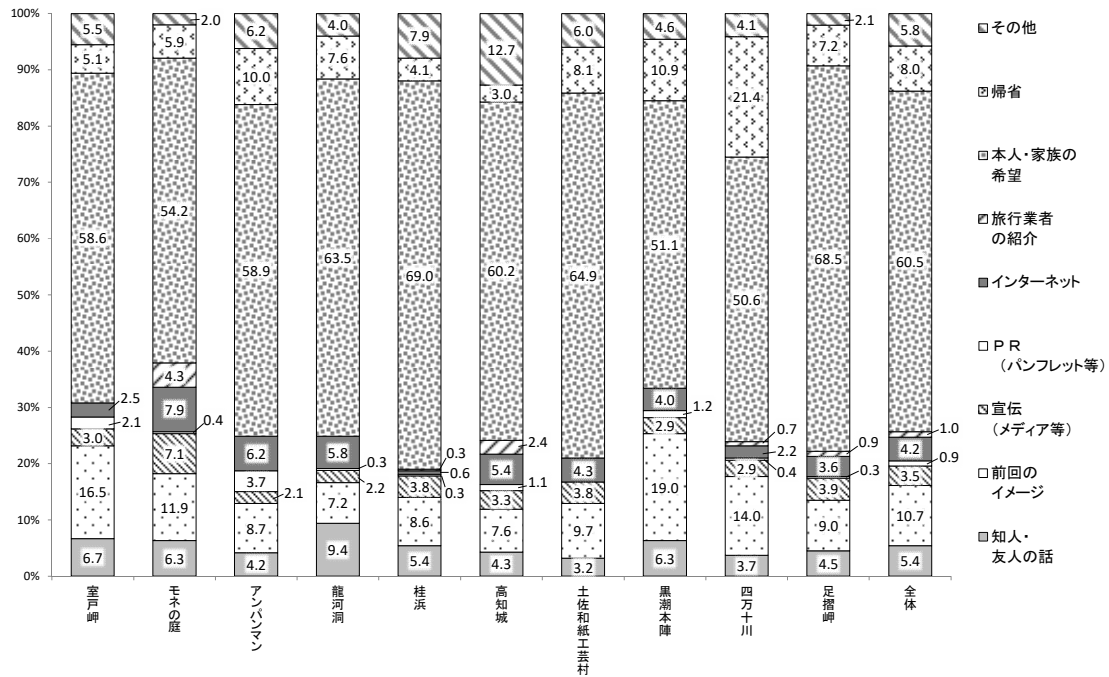
全体の過去来県回数は、「5回以上」が47.6%と最も多く、次いで「初めて」が25.1%、「2回目」が14.0%、「3回目」が9.4%、「4回目」が3.9%と続いている。

調査地別過去来県回数割合(P46 :図 12-4)で「3回以上」と回答があったものの内訳をみると、「初めて」は高知城、桂浜、足摺岬の順で、「2回目」は桂浜、龍河洞、足摺岬の順で、「3回目」はモネの庭、足摺岬、アンパンマンミュージアムの順で、「4回目」は黒潮本陣、室戸岬、アンパンマンミュージアムの順で、「5回以上」は黒潮本陣、土佐和紙工芸村、モネの庭の順で、それぞれ多くなっている。

※「3回以上」を細分化した調査は29年春より実施

12.4 動機割合

(図 12-5) 調査地別動機割合(%) [H30年]



(表 12-6) 調査地別動機割合(%) [H30年]

	知人・友人の話	前回のイメージ	宣伝(メディア等)	PR(パンフレット等)	インターネット	旅行業者の紹介	本人・家族の希望	帰省	その他
室戸岬	6.7	16.5	3.0	2.1	2.5	0.0	58.6	5.1	5.5
モネの庭	6.3	11.9	7.1	0.4	7.9	4.3	54.2	5.9	2.0
アンパンマン	4.2	8.7	2.1	3.7	6.2	0.0	58.9	10.0	6.2
龍河洞	9.4	7.2	2.2	0.3	5.8	0.0	63.5	7.6	4.0
桂浜	5.4	8.6	3.8	0.3	0.6	0.3	69.0	4.1	7.9
高知城	4.3	7.6	3.3	1.1	5.4	2.4	60.2	3.0	12.7
土佐和紙工芸村	3.2	9.7	3.8	0.0	4.3	0.0	64.9	8.1	6.0
黒潮本陣	6.3	19.0	2.9	1.2	4.0	0.0	51.1	10.9	4.6
四万十川	3.7	14.0	2.9	0.4	2.2	0.7	50.6	21.4	4.1
足摺岬	4.5	9.0	3.9	0.3	3.6	0.9	68.5	7.2	2.1
全体	5.4	10.7	3.5	0.9	4.2	1.0	60.5	8.0	5.8

※ 背景色+太字は動機ごとの上位2位まで。

全体の動機割合をみると、「本人・家族の希望」が60.5%と最も多く、次いで「前回のイメージ」が10.7%、「帰省」が8.0%、「その他」が5.8%と続いている。

動機別にみると、「知人・友人の話」は龍河洞と室戸岬が、「前回のイメージ」は黒潮本陣と室戸岬が、「宣伝(メディア等)」はモネの庭と足摺岬が、「PR(パンフレット等)」はアンパンマンミュージアムと室戸岬が、「インターネット」はモネの庭とアンパンマンミュージアムが、「旅行業者の紹介」はモネの庭と高知城が、「本人・家族の希望」は桂浜と足摺岬が、「帰省」は四万十川と黒潮本陣が、それぞれ多くなっている。

＜参考＞委託事業者の所見

平成30年に高知県を訪問した県外観光客入込数は、過去最高だった平成29年の約440万6千人を6千人上回る441万2千人となった。これは昨年に引き続き県内全域で開催され、二年間の会期中に会場を訪れた人が334万人に上った「志国高知 幕末維新博」の効果といえる。特にリニューアルした「高知県立坂本龍馬記念館」は年間約17万人の来館者があり、改めて坂本龍馬をはじめとする歴史文化の関心度の高さが浮き彫りとなった。

さらに、半年間で来館者が10万人を突破した「むろと廃校水族館」、アウトドア総合メーカーとして全国的な知名度を持つスノーピーク社が運営するキャンプ場「スノーピークおち仁淀川キャンプフィールド」、高知市中心部に開館した図書館等複合施設「オーテピア」など、新たな観光・文化施設も注目された一年となった。

このような現状のなかで、調査で得られた分析結果と旅行者の声などを参考に、県外旅行者の傾向、課題をみていく。

1. 旅行日数(2.0日)を延ばす可能性を探る

高知県には平成30年も多くの旅行者が訪れた。今年の特徴としては「1泊2日」の旅行者が県内旅行者全体の42.8%で、前年と比較して0.5ポイント増、「2泊3日」が0.3ポイント増となったものの、「日帰り」の0.3ポイント増に加え、「3泊4日」以上が減少したこともあり、平均旅行日数は2.0日と前年から増減がなかった。

また、過去5年間の推移をみると、「2泊3日」は16.6%から13.9%へ、「3泊4日」は5.9%から3.6%へと減少している(P17:表3-1年次別日帰り客・宿泊客割合)。

県内消費額を増加させる手段として最も有効なことは、県内旅行日数を延ばすことにあることから、平成31年からスタートする「リョーマの休日～自然&体験キャンペーン～」は試金石の一つになる。体験をすることで滞在時間を延ばし、飾らない土佐弁で話すガイドやインストラクターなど人と触れ合うことで、高知を好きになり、リピーターとなる可能性がある。

1泊2日と2泊3日の旅行者を比較すると、2泊3日の旅行者は1万4千円ほど多く消費していることが分かる(P51:表13-1)。

1泊2日の旅行者をいかに2泊3日にするかが課題の高知県にとって、ナイトタイムエコノミーの充実がその方策の一つとして挙げられる。

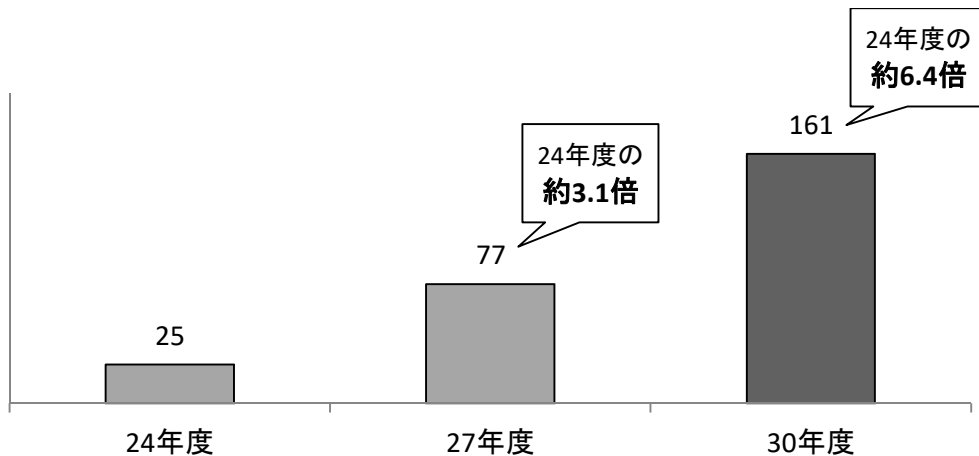
高知城とチームラボの特別企画をはじめ、「高知 光のフェスタ」では県内各所でイルミネーションやキャンドル、星空など「光」にまつわる様々な夜間イベントが開催され、観光統計調査の感想でも好意的な意見が多く寄せられた。また、高知の食文化の一つである「ひろめ市場」や居酒屋・屋台の楽しさもある。具体策の一例として、夜の8時から11時まで一年中、追手筋が決められた色(青や赤など)でライトアップされ、30分に一度レーザービームやデジタルアートなどによる空間演出があれば、幻想的な光景が話題を呼び、全国から注目されるのではないだろうか。

(表 13-1) 旅行日数別県内平均消費額(円)

		宿泊費	飲食費	交通費	土産代	その他	総額	差額
28年	1泊2日	9,686	5,947	7,769	5,039	840	29,281	13,831
	2泊3日	14,264	9,032	12,043	6,830	943	43,112	
29年	1泊2日	9,463	6,350	7,828	5,230	798	29,669	13,904
	2泊3日	14,379	9,646	11,333	7,057	1,158	43,573	
30年	1泊2日	9,816	6,553	7,106	5,377	880	29,732	14,410
	2泊3日	14,276	9,818	12,295	6,690	1,063	44,142	

また、県内各所でカヌーやSUP、ラフティング等のアクティビティ、四万十川や仁淀川、柏島の遊覧船、土佐和紙や陶芸等の文化体験、町歩きガイドなど、ここ数年で体験メニューは飛躍的に充実してきた。これらも県外に向けた広報が課題となるが、旅行者の滞在時間を延ばすための施策として期待される。

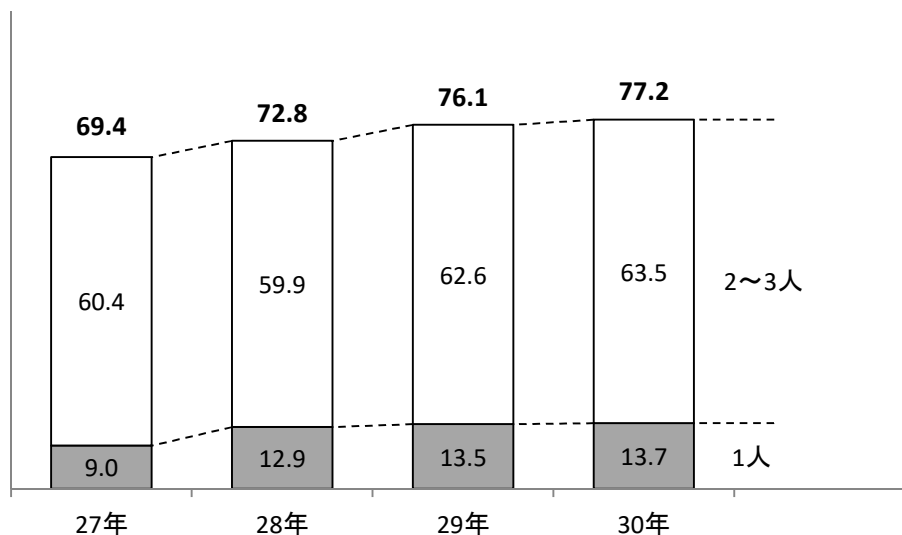
(図 13-2) 龍馬パスポート対象の体験プログラム数の推移



2. 個人、少人数旅行の対応が求められる

近年、全国的な旅行トレンドとなっている一人旅(平成27年9.0%、平成28年12.9%、平成29年13.5%、平成30年13.7%)と、家族または友人で2~3人といった少人数旅行(平成27年60.4%、平成28年59.9%、平成29年62.6%、平成30年63.5%)が増加傾向にあり、この2つのカテゴリで今年、旅行者の77.2%を占めている。少子化時代となり、三世代家族など大人数での旅行が減ってきたという傾向の中、個人旅行、少人数旅行に対応する着地型観光の充実が求められる。

(図13-3) 同行者数割合の推移(%)



また、宿泊施設・観光施設では、が求められそうだ。

気になる点として、満足度調査「お客様の声」アンケートでは、「旅行の満足度点数」が平成28年度86.0%、平成29年度85.9%、平成30年度85.0%と、高い水準を保ちながらも微減している。このため、時代に即した設備や話題性のある温泉整備といったハード面、接客のこれまで以上の充実やコンシェルジュ機能といったソフト面の強化など、官民挙げてさらなる満足度向上への取り組みが必要である。

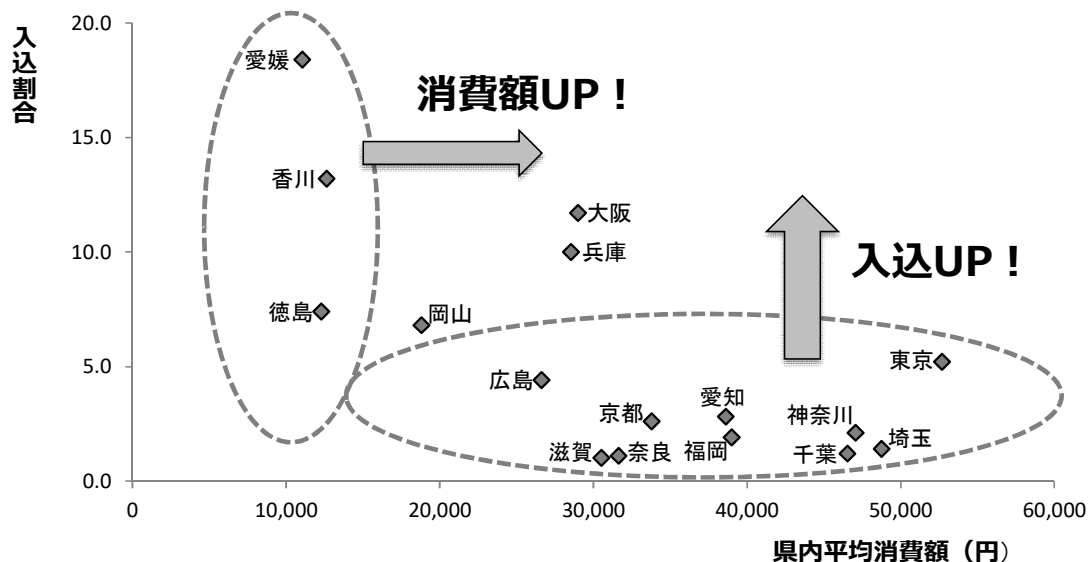
3. 県内消費額に関する分析

ここでは、県内消費額を多様な視点から集計・分析した結果を掲載し、その簡易な解説と考察をあわせて記載する。

都道府県別に今回調査の入込割合を縦軸、県内平均消費額を横軸にとった散布図が図 13-4 である。図中のプロット(点)が右に寄るほど県内平均消費額が高くなり、上に寄るほど入込割合が多くなる。

四国三県では消費額を増加させるため、主に周遊を促す取り組みや滞在時間を延ばす取り組みが、東京などの関東ブロック、大阪と兵庫以外の近畿ブロックなどでは入込割合を増加させるため、キャンペーンのPR等の誘致促進の取り組みが必要となる。

(図 13-4) 発地都道府県と県内平均消費額の散布図 [入込割合が 1.0%以上の都道府県]

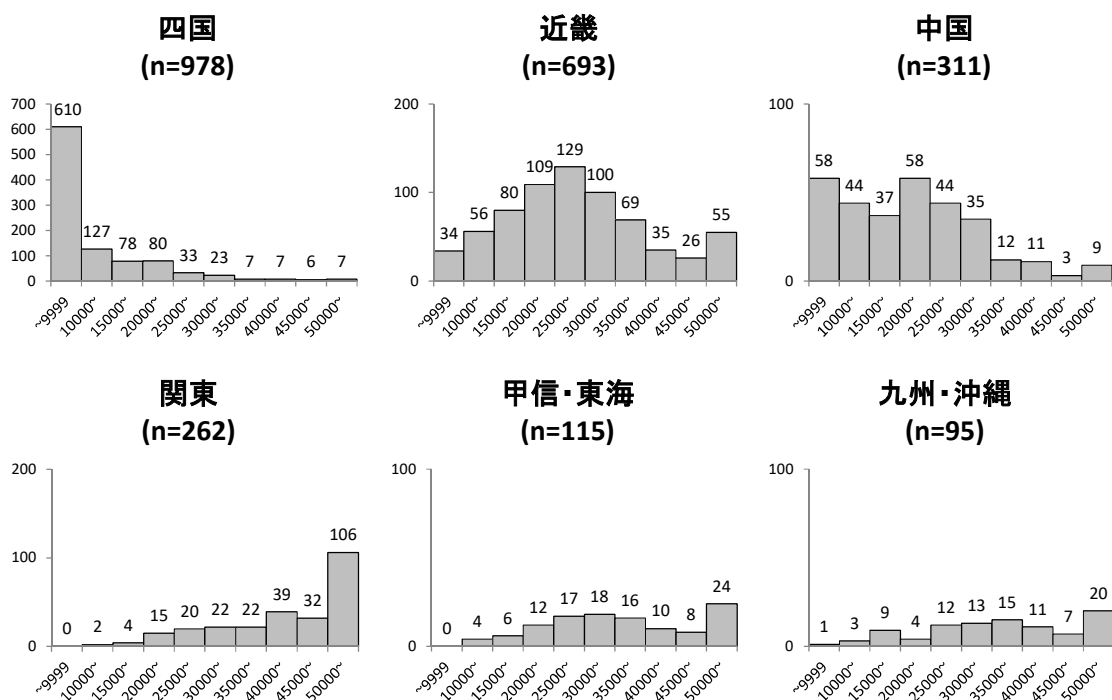


次に、旅行者ごとの県内消費額を発地ブロック別に整理したヒストグラムが図 13-5 (P54) である。最も低い区分を1万円未満、最も高い区分を5万円以上、その間の区分は5千円単位とした。

最も入込の多い四国は、1万円以下の区分で 62.4%を占めており、近畿は 25,000 円以上3万円未満がピークとなっており、関東は5万円以上が 40.5%と最も多いことが分かる。

なお、四国の1万円以下の 610 組の大半が日帰り旅行であるが、仮にこの旅行者層が一人当たり 2,000 円多く消費した場合、県外旅行者全体の平均消費額が約 488 円増加することになる。このことから、お土産をもう一品購入してもらい、いつもの食事を少しグレードアップしてもらい、目的地の付近にある観光施設へも足を伸ばしてもらおうといった地道な工夫や努力が、もう1泊してもらい取り組みに加えて、県内消費額を増加させるために欠かせないと考えられる。

(図 13-5) 県内消費額のヒストグラム [主な発地ブロック別に整理]



最後に、【大区分】県内外別・【中区分】日帰り宿泊別・【小区分】費目別県内平均消費額でとりまとめた直近5年の比較データ(P55:表 13-6)を記載し、そこからうかがえる消費動向の変化について述べる。

県外旅行者(海外・パック旅行等を除く)のうち日帰り客では、土産代が減少傾向にあり、近隣県から訪れるリピーター客の購買行動が弱まっている可能性がある。その一方で、宿泊客では、飲食費と入場料を含むその他が、最近2年間でやや持ち直した感があり、「志国高知 幕末維新博」等により周遊促進された効果が表れたのではないかと推察される。

また、本書で報告する県内消費額の算出に含まれない、県内旅行者(パック旅行等を除く)と県外旅行者(海外を除く)の消費額も参考までに記載する。県内旅行者のうち日帰り客では、そのほか復調の傾向が見られ、先述した周遊促進効果が推察される。

旅行代理店のフリープランを利用した旅行者では、現地小遣いの土産代と飲食費が、県外旅行者(海外・パック旅行等を除く)と比較して高水準にあり、宿泊費・交通費の出費を抑えられたことから、現地での消費行動が活発であることがうかがえる。添乗員付きパック旅行に参加した旅行者では、現地小遣いの大半を占める土産代が減少傾向にあることが分かる。

(表 13-6) 県内平均消費額の比較 [H30 年、過去 4 年間]

			宿泊費	飲食費	交通費	土産代	その他	総額	N
県外	日帰り	30年	0	2,641	3,683	2,329	549	9,202	946
		29年	0	2,453	3,696	2,768	531	9,448	944
		28年	0	2,680	4,004	3,003	604	10,291	1,072
		27年	0	2,644	3,948	2,915	579	10,086	978
		26年	0	2,744	3,632	3,047	606	10,029	960
	宿泊	30年	10,857	8,370	8,795	6,047	922	34,991	1,554
		29年	11,069	8,129	9,404	6,041	997	35,640	1,576
		28年	10,898	7,969	10,070	6,090	865	35,892	1,742
		27年	11,598	7,520	8,835	6,385	867	35,205	1,844
		26年	10,895	8,170	9,431	6,391	1,065	35,952	1,758
	全体	30年	6,749	6,202	6,861	4,640	780	25,232	2,500
		29年	6,922	6,003	7,266	4,815	823	25,829	2,520
		28年	6,747	5,954	7,759	4,914	765	26,139	2,814
		27年	7,578	5,830	7,141	5,182	767	26,498	2,822
26年		7,047	6,253	7,383	5,210	904	26,797	2,718	

			宿泊費	飲食費	交通費	土産代	その他	総額	N
県内	日帰り	30年	0	1,432	449	1,264	369	3,514	1,285
		29年	0	1,274	503	1,353	335	3,465	1,247
		28年	0	1,448	576	1,394	286	3,704	973
		27年	0	1,453	518	1,535	348	3,854	1,000
		26年	0	1,502	509	1,860	366	4,237	1,048
	宿泊	30年	7,462	4,105	1,724	3,164	221	16,676	55
		29年	7,635	4,850	1,447	2,524	570	17,026	50
		28年	7,575	4,913	1,514	2,969	416	17,387	48
		27年	6,547	4,645	1,051	3,778	217	16,238	58
		26年	8,411	4,095	1,063	2,674	500	16,743	66
	全体	30年	306	1,542	502	1,342	363	4,055	1,340
		29年	294	1,412	540	1,398	344	3,988	1,297
		28年	356	1,611	620	1,468	291	4,346	1,021
		27年	359	1,628	547	1,658	341	4,533	1,058
26年		498	1,656	542	1,908	373	4,977	1,114	

			宿泊費	飲食費	交通費	土産代	その他	総額	N
(参考) 県外	旅行代理店の ツアー	30年	549	8,734	545	8,547	1,280	19,655	107
		29年	116	8,207	778	6,401	871	16,373	86
		28年	404	9,019	1,821	6,381	1,042	18,667	89
		27年	558	7,499	2,394	7,877	1,479	19,807	86
		26年	168	7,365	1,924	8,467	1,305	19,229	107
	バス乗員付き 旅行	30年	0	3,686	0	5,273	206	9,165	44
		29年	149	2,811	0	6,701	64	9,725	67
		28年	161	3,490	165	5,369	75	9,260	62
		27年	38	1,846	1,231	7,250	156	10,521	26
		26年	0	3,423	185	7,740	293	11,641	52

高知県観光客アンケート調査票

Q1. あなたのお住まいはどこですか。国内にお住まいであれば都道府県名、海外であれば国名をご記入下さい。また、高知県内にお住まいの場合は市町村名をご記入下さい。

(都道府県名: _____)	海外の場合 (国名: _____)
↓ 高知県内の場合 → (市町村名 _____)	

Q2. あなたの性別、年齢を選んで下さい。※それぞれ1つだけ

性別 : 1. 男性 2. 女性
年齢 : 1. 10歳未満 2. 10歳代 3. 20歳代 4. 30歳代 5. 40歳代 6. 50歳代 7. 60歳代 8. 70歳代 9. 80歳以上

Q3. 今回の旅行は日帰りですか、宿泊ですか。※1つだけ

宿泊であれば、何泊か、そのうち県内では何泊するか、いくつの施設に宿泊するかをご記入下さい。また、県内ではどの地域の、どのような施設に何泊するかをご記入下さい。※いくつでも

1. 日帰り	2. 宿泊	↓ 宿泊した施設の数 ↓ 宿泊数 _____ 泊 → そのうち県内 _____ 泊 ⇒ 県内宿泊施設数 _____ 施設
--------	-------	---

＜県内宿泊施設＞

- | | |
|-----------------------------------|-------------------|
| 1. 実家や知人・親戚宅 () 泊 | 2. 旅館 () 泊 |
| 3. ホテル () 泊 | 4. ペンション・民宿 () 泊 |
| 5. 保養所・研修所 () 泊 | 6. キャンプ場 () 泊 |
| 7. (キャンプ場以外の) 車中泊・交通機関内での宿泊 () 泊 | |
| 8. 別荘・リゾートマンション () 泊 | 9. 会員制の宿泊施設 () 泊 |
| 10. ユースホステル・ライダーズイン () 泊 | 11. 公共の宿 () 泊 |
| 12. その他 () 泊 | |

＜県内宿泊場所＞

- | | |
|--------------------------|---------------------------|
| 1. 東部地域 (東洋町～芸西村) () 泊 | 2. 中央東地域 (香南市～南国市) () 泊 |
| 3. 中央地域 (高知市) () 泊 | 4. 中央西地域 (いの町～仁淀川町) () 泊 |
| 5. 高幡地域 (須崎市～四万十町) () 泊 | 6. 幡多地域 (黒潮町～大月町) () 泊 |

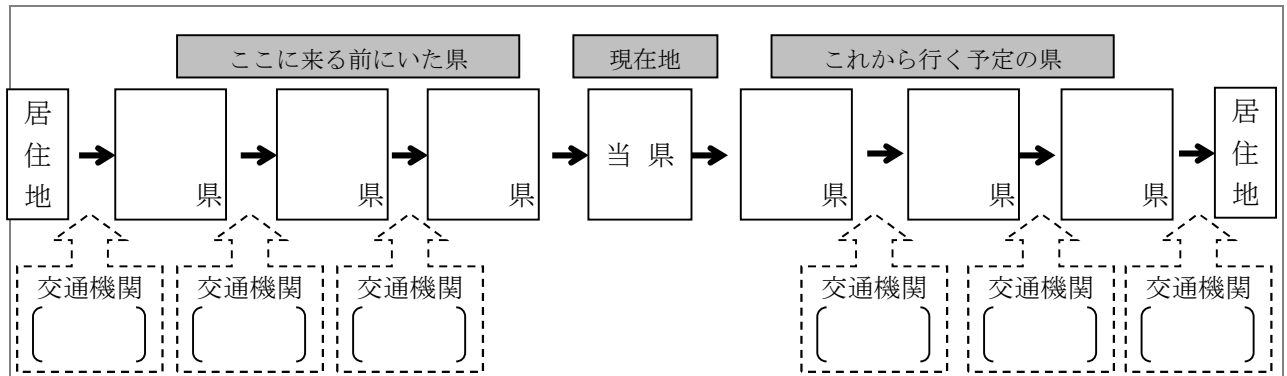
Q4. 今回のご旅行の主要な目的は何ですか。※1つだけ

1. ビジネス	2. 観光	
「2. 観光」を選んだ場合、今回のご旅行の主な目的を1つ教えて下さい。		
01 自然見物・町歩き	02 休養・慰安	03 祭り・イベント
04 登山・アウトドア・キャンプ	05 スポーツ (プロ野球キャンプ・観戦など)	
06 食べ物 (味覚・酒)	07 神仏・霊場巡り	08 買い物
09 名所旧跡・観光施設などの見学・行楽	10 なんとなく (ドライブ等含む)	
11 その他 ()		
3. 帰省・知人訪問		
4. (1～3のどれでもない) その他		

Q5. 今回のご旅行のきっかけを教えてください。

1. 知人・友人の話	2. 前回のイメージ	3. 宣伝 (TV・ラジオ・雑誌等)
4. PR (パンフレット・キャンペーン等)	5. インターネット (携帯電話含む)	
6. 旅行業者の紹介・ツアー参加	7. 来たかった・家族の希望	
8. 帰省	9. その他	

当県以外に立ち寄り都道府県がある場合はご記入下さい



【表】交通機関

- ① J R 新幹線 ② J R 在来線 ③ 私鉄・地下鉄 ④ モノレール ⑤ -1 貸切バス
 ⑤ -2 観光バス (MY遊バス等含む) ⑥ 高速バス ⑦ 市内バス・路線バス
 ⑧ 路面電車 ⑨ タクシー・ハイヤー ⑩ レンタカー ⑪ 自家用車、社用・公用車
 ⑫ 飛行機 ⑬ フェリー ⑭ バイク ⑮ その他

Q12. 今回の旅行で、使う費用（これから使う予定も含めて）を教えてください。

1人当たりの費用を、下欄の項目別にご記入下さい。

- ※ 交通費は高速料金やガソリン代や駐車場代を含め、県外・県内分を分けて記入
- ※ 今回の旅行がパック旅行である場合、費用が県内のみか、県外分を含むかを選択
- ※ ←表内の回答がグループ合計の場合にはチェック

	使用費用		使用費用	
①交通費	(県内分)	円	(県外分)	円
②宿泊費	(県内分)	円		
③土産代	(県内分)	円		
④飲食費	(県内分)	円		
⑤入場料	(県内分)	円		
⑥その他	(県内分)	円		
⑦パック料金				円
			↑ <input type="checkbox"/> 県内分のみ もしくは <input type="checkbox"/> 県外分含む	

Q13. ご意見・ご感想（他県と比べて良い点、悪い点等もお聞かせ下さい）

- ※ 冬期は特に、この季節に高知へ来られた理由、高知の魅力など（冬季対策の参考意見として）をお聞かせ下さい

※調査票コード

1. 観_共通_日

都道府県	調査地点ID	調査年月日	調査時刻	ID
			:	

- ・高知県では、観光博覧会「志国高知幕末維新博」に取り組んでいます。
- ・また、約700施設で特典が受けられる「龍馬パスポート」を発行しています。

Q1 高知県観光博覧会「志国高知幕末維新博」をご存知ですか。

- 1 出発前から知っていた 2 旅行中に知った 3 知らなかった

Q2 「龍馬パスポート」をご存知ですか。

- 1 出発前から知っていた 2 旅行中に知った 3 知らなかった。

Q3 「龍馬パスポート」をお持ちですか。(Q2で1または2と答えた方のみ。)

- 1 持っている。(パスポート種別：1 青 2 赤 3 ブロンズ 4 シルバー 5 ゴールド)
2 現在申請書にスタンプを集めている。
3 持っていない。

Q4 約2,000件の観光情報をスマホアプリに集約した「公式！こうち旅アプリ」をご存知ですか。

- 1 出発前から知っていた 2 旅行中に知った 3 知らなかった

- ・高知県では、豊かな自然を生かしたスポーツツーリズムを推進しており、特にサイクリング観光は、コースの設定等を行うなど、取り組みを進めています。

Q5 今回、主にサイクリングを目的に高知県に来ましたか。

- 1 はい 2 いいえ

Q6 今回の旅行でレンタサイクルを利用しますか(しましたか)。

- 1 はい 2 いいえ

- ・高知県では、観光客の満足度向上のため、「おもてなしトイレ」や「おもてなしタクシー」の取組を進めています。

Q7 「おもてなしトイレ」をご存知ですか。

- 1 知っている 2 知らなかった

Q8 「おもてなしトイレ」を利用したことがある方にお聞きします。

「おもてなしトイレ」の快適性について

- 1 大変良い 2 良い 3 ふつう 4 悪い 5 大変悪い

【理由】

Q9 「おもてなしタクシー」をご存知ですか。

- 1 知っている 2 知らなかった

Q10 「おもてなしタクシー」を利用したことがある方にお聞きします。

「おもてなしタクシー」の接客マナーについて

- 1 大変良い 2 良い 3 ふつう 4 悪い 5 大変悪い

【理由】